令和6年度 南大隅町議会定例会 12月会議 会議録（第1号）

招集年月日 令和 6年 4月 2日

招集の場所 南大隅町議会議事堂

開 会 令和 6年 4月 2日

開 議 令和 6年12月 5日 午前10時00分

応召議員 全 員

不応召議員 な し

出席議員

1番 後藤道子議員	6番 上之園健三議員	10番 幸福恵吾議員
2番 森田重義議員	7番 津崎淳子議員	11番 大坪満寿子議員
3番 日高孝壽議員	8番 平瀬十助議員	12番 木佐貫徳和議員
5番 浪瀬敦郎議員	9番 大村明雄議員	13番 松元勇治議員

欠席議員 な し

会議録署名議員：（2番）森田 重義 議員 （3番）日高 孝壽 議員

職務の為の出席者：（議会事務局長）黒木 秀 局長 （書記）平瀬戸 ゆかり 書記
（書記）木佐貫 里子 書記

地方自治法第121条の規定による出席者

町 長	石畑博町長	介護福祉課長	山里真奈美課長
副 町 長	竹野洋一副町長	経 済 課 長	新保哲郎課長
教 育 長	山下四郎教育長	教育振興課長	畦地茂穂課長
総 務 課 長	熊之細等課長	税 務 課 長	松山隆広課長
支 所 長	坂口達郎課長	町民保健課長	戸島和則課長
会 計 管 理 者	黒江鳴美課長	農業委員会事務局長	木佐貫公子局長
企画観光課長	中之浦伸一課長	デジタル推進課長	佐藤ひとみ課長
建 設 課 長	中村喜寿課長	総務課総務係長	原琢磨係長
建設課技術統括監	原圃光一統括監	総務課財政係長	若松勝男係長

議 事 日 程： 別紙のとおり

会議に付した事件： 議事日程のとおり

議 事 の 経 過： 別紙のとおり

散 会 令和6年12月 5日 午後 3時26分

議 事 日 程

日程第 1	会 議 録 署 名 議 員 の 指 名
日程第 2	審 議 期 間 の 決 定
日程第 3	諸 般 の 報 告
日程第 4	一 般 質 問

▼ 開 会

議長（松元勇治議員）

ただいまから、令和6年度南大隅町議会定例会12月会議を開きます。
議事日程表により本日の会議を開きます。
本日の議事日程はあらかじめ配付したとおりであります。

▼ 日程第1 会議録署名議員の指名

議長（松元勇治議員）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第121条の規定によって、森田重義議員及び日高孝壽議員を指名します。

▼ 日程第2 審議期間の決定の件

議長（松元勇治議員）

日程第2、審議期間の決定の件を議題とします。
12月会議の審議期間は、本日から12月13日までの9日間にしたいと思います。
ご異議ありませんか。

「なし。」 という者あり

議長（松元勇治議員）

異議なしと認めます。
したがって、12月会議の審議期間は、本日から12月13日までの9日間に決定しました。

▼ 日程第3 諸般の報告

議長（松元勇治議員）

日程第3、諸般の報告を行います。
監査委員から9月から11月までの例月出納検査の結果に関する報告と定例監査の結果報告が提出されましたので、お手元に配付のとおりです。
また、系統議長会関係では、郡町村議会議長会が11月29日に、第241回定期総会が開催され、令和7年度行事計画、及び当初予算案について審議を行いました。
本日までに受理した陳情及び一般的事項につきまして、お手元に配付及び所管の常任委員会に付託しましたので、口頭報告を省略します。

▼ 日程第4 一般質問

議長（松元勇治議員）

日程第4、一般質問を行います。

順番に発言を許します。

まず、森田重義議員の発言を許します。

[2番 森田 重義 議員 登壇]

2番（森田重義議員）

改めまして皆さま、おはようございます。

令和6年12月定例会議一般質問1番目を質問させていただきます。森田重義です。

石畑町政並びに我々議員任期4年の大詰めとなってきました。今回も9名の議員の方々の一般質問、町政を良くするために議論を深めていきたいところではございますが、今回私が質問させていただきますことは、1問3項、令和5年度町道古殿加治町線事業についてお尋ねいたします。

当初予算当時では路面補修事業と提出承認いたしましたところでしたが、前回の決算審査において、路面補修工事とは異なる執行が明らかとなりご指摘致したところではございましたが、決算審査特別委員会での討論の結果、賛同は得られず、決算は問題なく認定されたところではございました。

しかしながら、変更になった経緯説明等が不十分であると町民の方々からも何でこういう事業なんだろうかというご質問、ましてや監査委員からもご指摘があったかと思われま。その変更経緯、何故こういう事業名に提出されたのかということについてお尋ねしたいと思います。

1問、町道古殿加治町線路面補修事業に関する事業変更の説明について。

①項、いつ事業が変更になったのか。また、その理由をお伺いいたします。事業執行における変更になった理由について、お聞かせ願いたいと思っております。

②項、事業変更をなぜ議員に対して説明を行われなかったのかお伺いいたします。本来、事業変更があった場合、通常は議会に対して説明をする責任があると考えますが、なぜ事前に議会に対して説明が行われなかったのかご説明願います。

③項、透明性の確保と今後の改善策についてお伺いいたします。情報公開の重要性と透明性は重々ご承知かと思いますが、事業変更に関する情報は適時に開示すべきだと考えております。今後どのような情報を共有しているのかお考えか、具体的な方針と改善策をお示し頂ければと思っております。

以上をもって壇上からの一般質問とさせていただきます。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

おはようございます。12月会議、よろしくお申し上げます。

森田重義議員の第1問、町道古殿加治町線路面補修事業に関する事業変更の説明についての第①項、いつ事業は変更になったのか、また、その理由を伺うとのご質問でございます。

令和5年度予算編成時以前から用地等の相談を実施しており、当初計画では離合

できるスペースの確保としてお願いしておりましたが、発注時まで最終合意に至らなかったことと、現状の仕上げでの工事についてはご理解を頂いたところであり、その発注後におきまして、工事拡張についてのご了承を頂いたところであります。

2番（森田重義議員）

今、事業計画があったということで、昨年9月にも一応こちらの事業体につきましては寄附採納で事業執行をされているということでご質問もさせていただきました。

その中で、私は寄附採納についてのご質問だったので事業名についてのご質問はいたしませんでしたが、今回、路面補修工事として当初予算で一括で上げられたんですけれども、昨年9月の寄附採納のときにもだったんですけれども、こういう寄附があった場合の事業体というものは、事業内容のご説明が必要じゃないかという問いをなげかけたと思うんですけれども、それについては如何思われますか。

町長（石畑博町長）

令和3年度に寄附採納の説明を議会のほうに全協でさせていただきました。その際には、古殿加治町線の道路改良工事ということで寄附採納もちゃんと頂いておりますので、それを議会に説明をして、令和4年度で色んな検討をしまして、令和5年度で工事着工をしているところでございます。

その中で、決算審査でも工事名についてが路面補修ではないということではご指摘頂きましたので、そこについては一部は側溝等の補修等もする予定でございましたけれども、今のところでは道路改良拡幅ということで事業執行をして、今おっしゃいましたとおり、決算審査の中でも、審査の過程、そしてまた現地での説明もさせていただきましたしまして、総括質疑でまた私のほうからも改めてその説明をさせていただいてご了承頂き、決算審査認定を受けたところでございますので、そういった内容でございます。

2番（森田重義議員）

当初予算でこちらの道路新設改良事業1億4千13万3千円という11の事業で、しかもこの地図で古殿加治町線路面補修というこれだけではどうしてもこういう事業体が我々も推測はいかないところでございます。

事業申請時に町長が査定されるかと思うんですけれども、何故そこで路面補修じゃないとお気づきにならなかったんでしょうか。その理由ございますか。

町長（石畑博町長）

今のお示しされた当初予算の中では細かい工種等については出ないわけでございます、私もそこまでそれが新設改良、維持補修、そしてまた・・・の中の部分のそこには気づかなかったという意味じゃなくて、通常ある中で建設課職員が付した工事名ですので、それはそのまま予算に計上したということでございます。

2番（森田重義議員）

ちょっとお話が矛盾するところがございます。

当初この改良工事というのは、計画があったと当初町長から言われておりましたが、この事業体が上がったときに何故それがその事業だとお気づきにならなかった

のはちょっと不明な点かとは思いますが、今回こちらの事業体の説明ということで私も一般質問をさせていただいておりますので、仮にこの計画があったということで、この事業体が今の形状の形だけしか計画されてなかったのか、9月にも申し上げましたが、目の前には空き地もあってそちらの用地買収等すれば、なんなく低予算でできる可能性もあったんですけど、そういう計画等は持っていらっしやらなかったんでしょうか。

町長（石畑博町長）

決算審査でも説明をさせていただきましたけれども、道路の直角交差という部分では通行される方々が通行しやすい道路を作るのが一番でございます。国道、県道等においてもカーブのところを直線化した場合には残地が残るといのは多々あるところであります。

そしてまた、塩入中線においても同じような状況の中で、利便性を上げるということでございますので、そこは町民皆さまの要望としてしたところでありまして、今おっしゃいました道路の線形については、今の錦江署、そしてまた県公安委員会等の指示のもとに計画をしたところでございます。

2番（森田重義議員）

今、通行しやすいというお話での事業、町民の方々も広くなればということで喜んでいらっしやる方も私も耳にしております。

先ほどから計画をする上で今のこの通行しやすい計画という中でもですが、これは調査をされましたかね。それを広げるために通行量とか、広げたときの通行しやすい区分というのがどのようになるかというのは事前に調査を行われたんでしょうか。

町長（石畑博町長）

通行量の調査はしておりませんが、今さっき議員がおっしゃったように、反対にずれたときには、またその先のほうがまたカーブになりますので、今現道真っすぐしておりますので、その真っすぐの部分を通して行ったほうが良いという判断で、今の原形の線形になったと思っております。

そういった意味では、町民多くの方々からあそこが広がってよかったというご意見、そしてまた神山小に子どもさんを送迎される親御さんの方々からも非常に通行しやすくなったというご意見を伺っておりますので、私は成果としては今の線形が一番よかった線形だというふうに認識しております。

2番（森田重義議員）

一応、今口頭だけで言うておりますので、今画像を準備しておりますので画像のほうを提示させていただきます。（書画カメラ画像投影）今これが古殿加治町線の今回改良していただいたところなんですけども、今現在、町長がおっしゃられたとおりの今のこの拡幅工事を行なわれたところでした。

錦江署にもお問い合わせ、ご指導というお話も今ご答弁頂きましたけども、私のほうも錦江署のほうにお尋ねいたしました。

錦江署のほうでは今こちらの矢印の部分が歩道だということで、錦江署のほうも何でこんな形になるのだろうかということはおっしゃってたんなんですけども、一応

公安等の協議の上という事でその確認はさせていただいております。

また、こちらのカラーポールの立っているここは、どういう使い方をするのが不明だということで錦江署のほうからもお聞きしております。

我々もこの拡幅は去年の9月に一応寄附採納としてのお話では聞いておりますけども、この道路工事がどのような完成形というのが全然見えない状態での決算に至ったところでした。再三、先ほど事業名が変更されていないということの訂正は言われておりますが、実際これが完成形では、どういう形で拡幅等工事終了を終えるつもりだったのかお聞かせいただけますか。

町長（石畑博町長）

冒頭申し上げました寄附採納の中で1筆全てを寄附頂いておりますので、道路の線形としては今の線形に最終的に落ち着きましたけれども、今の残地としてはそれは頂いたものでございますので、残地としての活用は、今のところ当初では出る側が2方向にということもあったんですけれども、これは錦江署と公安委員会等の指示の中で、今の現状の中でここを国道に出る側が2車出るとこれは事故の危機になりますので、それはできないということで、そして今のポールによって制限をしているところでございます。

2番（森田重義議員）

昨年も安全面のことでも私もお話しさせていただきましたけども、今回の1問目につきましては、事業についての変更理由等についてのご質問ですので、続けてそのことについてご質問させていただきますが、こちらの工事の予定価格、並びにこれは入札等も発生しているかと思うんですけども、入札方式というものはいかようにされていたかご答弁いただけますか。

町長（石畑博町長）

事務的な部分につきましては建設課長に答弁させます。

建設課長（中村喜寿課長）

ただいまのご質問でございますけれども、予定価格については、今すみません持ち合わせておりませんので回答ができませんけれども、工事の入札の内容につきましては、指名競争入札で執行しております。以上です。

2番（森田重義議員）

決算審査も終わらせていただいておりますので、一応私のほうにも手元の資料で、予定価格は1千7百77万8千2百円という予定価格でございました。

執行価格につきましては2千1百24万8千円となっているんですけども、予定価格よりもまた上がっているということなんですけども、その理由と、ここは先ほど寄附を頂いた建物もあったんですけど、その解体というものも入っているんですけども、その金額というものはお示しできますか。

建設課長（中村喜寿課長）

当初の概算設計のただいまの設計額でございますけれども、当初契約額が1千7百38万円、それから、変更しておりますので既存町道の舗装やり替え、それから、そ

の後に道路拡張等の工事をやっておりますのでその分が変更になっておりまして、変更額が3百86万8千円、完了が2千1百24万8千円、当初の予定価格よりも上がっているのは予算の範囲内での執行ということでやっております。

それから、解体についての部分につきましては、決算特別委員会のほうでもご説明をさせていただきましたが、解体工事費は1千5百97万9千円ということになっております。

2番（森田重義議員）

2千1百万の事業体に関して解体費用が1千5百万ということで、何で私が事業名をというところを言っているのは、路面補修というのは本当アスファルトの張り替え云々だと認識しておりました。それなのに事業が始まったら解体がということで、これはもともと解体工事も含まれた事業設計と考えてよろしいのでしょうか。

あと、用地買収が先ほど画面で示しましたが、途中1車線になった用地の買収額も含めた上での予算組みだったのか、そこのお答えいただけますか。

すみません、用地買収ですね。今回の事業を図るために2車線するためには、寄附採納を受けた場所のその裏にも広げないといけないために用地買収をしないとできない箇所があったかと思うんですけど、そこも予算の中に一応折り込まれた今回の予算額だったのかお示しいただけますか。

建設課長（中村喜寿課長）

工事費につきましては、解体の工事費も含んでおります。

それから、用地の買収費につきましては、今回のこの令和5年度の事業については含んでおりません。

2番（森田重義議員）

用地買収に関しましては、今回の予算には含まれてないということで、ということは補正予算は含まれるということで認識してよろしかったですかね。町長も一応交渉は進めているという昨年の9月の時点でもおっしゃっておりました。

先程来から言うのが、事業名が補修工事ということがまずおかしいということと、2つ目は、その説明等がなされないということの2つ目ですね。計画性でいってまだ用地買収も済んでないのに何で着工を始めたのかというところが、私が何でいつ変更になって始められたのかというこの1問①項のご質問ですけれども、5年度に用地買収を整えてから6年度執行というものは考えなかったのでしょうか。

町長（石畑博町長）

冒頭で申し上げましたとおり、発注の事前の段階では前向きな、個人情報になりますので詳しくは言えませんが、前向きなお話でしたけれども、発注前になってからちょっと時間をくださいということでございましたけれども、現段階でこの手前側の工事はいいですかということの確認はさせてもらって、それで了承を頂いて発注し、発注した後にそういった前向きなご了承頂きましたので、令和5年度では今の工事終わった分だけをして、6年度におきましては、今諸般の災害復旧等の工事が多くなっていくことから5年度は見送っております。

2番（森田重義議員）

計画性として見込みという形でそれがまた不審な点を招いたかと思われまので、極力、極力というのは変ですね、しっかり計画があったのならしっかり計画を実行できる体制を整えてからの着工というものが望ましいかと思っております。

解体費用が今回入っているということで、先程来言うように、何で路面補修で解体工事が入るとよというお声が出たりとか、今回は寄附採納を受けた箇所でもございます。

他町村ですけれども、課長級の方にこういう内容ということじゃなくて、こういう案件があった場合にはどうなんだろうかとお尋ねしたときに、一般財源で道路工事とするときには、もう用地買収等かかるときにはそういう解体工事も含まれるということでしたが、今回寄附採納で無償で頂いてる分に関したら、それは解体工事は別で事業は申請しないといけないということも聞いておりますが、そういうことは本町ではないんでしょうか。

町長（石畑博町長）

それは考え方の違いだと思いますので、例えば、家屋補償をする移転補償には、それなりの移転補償もしなければなりませんけれども、それは古殿加治町線の拡幅ということで相手方からもそういった目的に基づいた寄附をしていただいておりますので、その目的の中は、これまで同様に塩入中線もでしたけれども同じ形の工事を取っておりますので、そのボリュームが大きい小さいかの話でございまして、今回は今申し上げましたようなそういった執行をしたところでございます。

2番（森田重義議員）

今、塩入中線も出ましたけども、令和4年度の決算審査特別委員会の委員長も務めさせていただいて、ここの塩入中線もやはり同じように路面補修工事という形で出ておりました。

何で私がそこをご指摘しなかったかというのと、これ継続事業で上げられてましたよね。ですから、決算審査で我々もそれまでのご説明等変更等があるという見込みも考えながらだったんですけども、今回も古殿加治町線も同じ状況、ましてや決算審査の時には拡幅工事ということで、これは明らかに議会軽視と私は判断せざるを得ない案件だと思ひまして今回ご質問をさせていただいたところでした。

それにつきまして、次の②項、なぜ事業変更を議会に対して説明を行わなかったのかご答弁いただけますか。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

森田議員の第1問第②項、事業変更をなぜ、議会に対して説明を行われなかったのか伺うとのご質問でございます。

工事発注につきましては年間には相当件数ございますが、当初計画に対し計画の中止や大きな変更等には該当しないことと、当該工事は、南大隅町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づいた契約案件ではなかったことから、特にこれまでも議会への説明を行っておりませんので同様の取り扱いをしたものでございます。

2番（森田重義議員）

大きな変更等がなければ議会には説明をしなくてもいいというご回答でしたけれども、再三申し上げるとおり、もともとのこの事業体というのが名前が違う、工事名としてが成り立たない、私はその認識です。

ですから、昨年の返りますけども寄附採納の質問させていただいた時に、その時にも町長は改良工事ということをやはりおっしゃっておいりました。それなのにこの路面補修工事で進められたという違和感というものは持っていなかったのか、更に、私が去年の9月にその寄附採納を受けたところの事業店については説明責任をしつかりいただけないかという提言をしたかと思うんですけど、それについては全然受け止めていらっしゃらなかったんでしょうか。

町長（石畑博町長）

今色々おっしゃいましたとおり、工事としてはいわゆるイメージ的には改良工事ですけれども、決算審査の中でもご説明いたしましたとおり、工事内容等の一部この差異が大きいことから、今後についてはまた改めていく旨の回答をさせていただきます。決算認定を受けて議決を頂きましたので、そういった意味での説明ということでご理解を賜りたいと思います。

2番（森田重義議員）

決算審査の時に討論させていただいたときに他議員の賛成の方のお話を聞いたとき、我々は当初予算で承認しましたよというお話を言われました。

先程から言いますとおり、承認時点では路面補修工事というので我々は承認はしたけども、決算時にはそれじゃない事業執行ということを何でそれが声が上げられないのかという、町長が今認定いただいたとおっしゃるとおり、私も決議のときには討論等は決算特別委員会の趣旨を守っていたしませんでした。採決に関しましては不認定を出させていただきました。

このように議会のほうに説明責任をしつかり頂かないと、私のようにちゃんと疑問をずっと持って、町長がしつかり来年度も出馬されて取り組もうという意気込みは持っていらっしゃるとは思うんですけども、どうしても不信感が生まれてしまいますので、そういう点にはご注意くださいと思います。

並びにこういうご提言を事業の説明等をしつかり頂ければ、せっかくあの土地は繁華街の中心地です。建物等は無償で頂いているんですよ。それだったら道路の拡幅もなんですよ、あそこを拠点にしたお隣には学習塾等もごございますので、子どもたちの夕方待機児童の場所でも使えますし、老人の方々もお買物等にいられたときの中心地で使える、ましてや今観光協会が元普及所にはございますが、中心地にあれば観光案内等でも十分ご利用ができるんじゃないかと、私はもしご説明があればそういうご提言も出来たかと思えます。

ましてや道路拡幅に関しましては先ほど言ったとおり、その建物はそのまま維持したまま空き地のほうを拡幅工事をすればご利用としては十分機能するんじゃないかと思っております。

もう1つは、普及所をなぜ言ったかという、今度は町地区におきましても公民館が老朽化してというお話もございました。地域住民の方々はその旧普及所が、あそこが公民館になればねというようなお話等も聞いております。

佐多地区におかれましても今待機児童の問題とか、先日佐多小、第一佐多中のPTA

のほうから要望書も頂いて、佐多のほうを置き去りにしてるんじゃないかというようなご指摘まで受けているところでした。公平性を保つためと、先ほどから建設事業に関しましては多くあるというのも重々認識はしてるんですけども、路面補修という形で各箇所ですぐ出来る箇所というのはどんどん要望が来てるんですけども、何故そういうところに取り組みられないのかというところまで疑問に思っているところでした。

議会にご説明頂く必要性というのをもう1回再認識頂いて③項目お願いいたします。

(「今のに答弁。」との町長より声あり。)

答弁ございましたらお願いします。

町長（石畑博町長）

今、おっしゃいましたとおり、改良工事に値する部分を維持補修ということでしたので、それは決算審査でも説明いたしましたので、その分についてはきっちり取り組んでいきたいと思っておりますのでご了承いただきたいと思っております。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

次に、森田議員の第1問第③項、透明性の確保と今後の改善策について伺うところのご質問でございます。

予算計上の段階で、工事内容についての説明を今以上に丁寧に行うとともに、設計内容と工種等についても、建設課としての考え方を統一し、担当職員間での整合性のある工事内容、執行に努めてまいります。

2番（森田重義議員）

今ご答弁は頂きましたけども、この1回信頼失うと取り戻すというのは非常に大変なことでもございますので、各担当課にも申し訳ないと思うんですが、町民のやっぱりお声というものが我々議員も把握した上でご説明が行く事業体というものをお必ず執行いただけないかと思っております。

今回の③項目につきましては、透明性の確保と今後の改善策ということですが、我々議員といたしましても、当初予算でご提示頂いた事業内容について、これ中間検査等も必要になってくるんじゃないかと考える次第でございます。

そういうところまで監視しないといけないということがないように今後も取り組んでいきたいと思うんですけども、最後に、今の工事が完了した中でどうしても今交通をされている方々の安全性を守るためのちょっとお話だけさせていただきたいんですが、先ほどの画像を提示いたします。（書画カメラ画像投影）

こちらが国道側から入って来て神山小学校の前ですね。そちらのほうの入り口になるんですけども。先ほど錦江警察署のほうにも住民の方々から、ここがやっぱり見てのとおり停止線等もないということで、錦江警察署のほうにも住民の方々から、この一旦停止とか線は引いてくれんとというご要望をやっぱり聞いているということでした。

しかし、警察署のご回答は、警察がもしそういうことの調査して引いた時に取り締まりをしないといけなくなるので、それはかえって住民の方々にご迷惑になるんじゃないかということでした。

こちら町道です。道路管理者が独自に引く分には安全対策で構わないということでしたが、そういうものについては今後お考えじゃないんでしょうか。

町長（石畑博町長）

今議員がおっしゃった分については、きっちりした止まれの停止線は公安委員会の指定事項ですので、それはそうすべきだと思います。

ただ、注意喚起として停止、止まってくださいという部分は今お話も私も聞いておりますので、それについては設置していきたいと考えます。

2番（森田重義議員）

先ほど執行部のほうは交通量の調査等もされてないとおっしゃいましたので、私のほうで独自で一応こちらの交通量の平日の朝7時から8時、通勤、通学の時間帯だけではございますが一応ここで確認はさせていただきました。

大体往来する車が26台ほどでした。そのうち6台が大体近隣住民の方々のご出社という形で、残る20台は子どもの送迎、先ほど町長もおっしゃいましたけども、そういう方がご利用になっているところでした。児童につきましては3名の児童の方がここを利用して、先ほどのオレンジのカラコーンをあれはぶよぶよ動きますので、その遊びながら登校する姿も目に映りました。あと、自転車でこれは就農者の海外からの方でしたけども、たまたま今回は畑が多分下町方面のほうだったと思うんですけど、いつもは雄川橋のほうでお見かけするんですけども、今回そちらを6台ぐらい自転車で通行という形になっております。

また、これは神山小学校の学校長ともお話をしたんですけども、もともとがあそこは統合時にスクールバスを通るということで、通行の利便性を考えないといけないところとは認識しておりましたが、その時のPTA並びに学校側、地域住民の方々の意思では、あそこを広くすれば便利にはなるけど危ないよねということでした。

ですから、改良することがあくまでも良いことではないということもお考え頂きたいと思っております。・・ごとによっては不便なところが安全性を保たれるということまでご認識頂いて、今後に事業計画に反映いただければと思っております。

今回の説明でもなかなか私も納得がそこまでいけるところでございました。総合性の合わないご回答、計画はあったのにこの事業体の名前については気づかなかったとか、そういうところは、本当に執行部としてもしっかりいただかないと思っておりますので、今後ご注意願いたいと思います。

私からの一般質問は最後となりますが、町長のご答弁を最後によりしくお願いします。

町長（石畑博町長）

色々ご指摘も賜りましたので、これから先のいわゆる道路行政、道路新設改良等についても生かしていきたいというふうに思います。

今度はいずれにしましても、もともとの道路は狭かったということから、改良の要望、広くしてほしいという要望はたくさん来ておりましたので、今現在ああいった形になって、まだ完全ではありませんけれども、広がって良かったと、いわゆ

る国道から入る方、出る方の離合等も上手くいく形になりましたので、結果としては、町民皆さん方にはいい形で安全性の提供が共用する道路として出来たのではないかと思います。

これまでに決算審査、そしてまた今議員がおっしゃったこと等につきましては、今後の道路工事等に十分生かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

2番（森田重義議員）

最後の一言で申し訳なかったんですけども、通行がスムーズにという最後のお言葉に一応提言なんですけども、今、先ほど映し出しました小学校がそこは一旦停止ということなんですけども、今度は国道側のほうにも一応行って見られれば分かるんですけども、停止線がなかなか前に出ないと右からの車が見えないんです。軽自動車ならまだしもなんですけど、大型の箱バンとかそういう車になると、どうしても車が前に出ないと右からの車というのが見えない状況であり、そういうところもしっかりご注意いただいての今後の安全対策に努めていただければと思います。

では、すみません、以上をもって一般質問を終わらせていただきます。

議長（松元勇治議員）

次に、大坪満寿子議員の発言を許します。

[11番 大坪 満寿子 議員 登壇]

11番（大坪満寿子議員）

おはようございます。

去る11月1日に根占中学校、10日に第一佐多中学校の文化祭が開催され拝見しました。どちらも素晴らしい文化祭で元気をもらった1日でした。

元気をもらった一方で、私たちの頃と比べ生徒数が少なくなったなあと実感することでした。

少子化は全国的な問題であることは承知しておりますが、このまま子どもが減少していくのを見ているしかないのか、何かできることはないのかと考え、今回は教育支援について一般質問いたします。

①項、支援の現状を伺います。②項、小学校、中学校の修学旅行の支援の拡充は考えられないか伺います。③項、高校生への通学支援は考えられないか伺います。

以上で私の壇上からの質問を終わります。

教育長（山下四郎教育長）

おはようございます。よろしくお願い致します。大坪満寿子議員の第1問、教育支援についての第①項、支援の現状を伺うとのご質問でございますが、教育費において支援している事業は、小・中学入学支援、この事業は、義務教育における入学時に一律5万円を支援しております。修学旅行助成事業では、小学生に1万5千円、中学生に2万5千円支援しております。

また、町の移住定住促進事業に加えて、佐多地区へ児童生徒のいらっしゃる家族の移住を促進するため、教育移住支援も令和5年度から実施しております。

他、中学総体出場補助金、町子ども会育成連絡協議会事業補助金、町内探訪によ

り本町の魅力を再発見したり、本町と友好関係にある自治体の児童・生徒と交流を行うチャレンジスクール事業補助金、高校生クラブ運営実行委員会事業補助金などにより児童生徒を支援しております。

そして、子育て世代の負担軽減を図るため、令和4年12月から給食費の無償化を行っております。

また、ネッピー・みさきちゃん奨学金償還補助事業において、奨学ローンの返済に対しても支援を実施しております。

あと、南大隅高校存続事業に特化しておりますが、距離等に応じて1千円から5千円の通学補助、他に協議会を通じて、下宿事業者への補助、奨励金の交付、魅力発信事業等に対して支援をしております。

1 1 番（大坪満寿子議員）

色々な支援があります。町長が施政方針で宮迫武蔵・オノリ教育基金を活用して、小・中学校入学支援、修学旅行助成及びネッピー・みさきちゃん奨学金償還助成について、引き続き拡充を含めた取組みを行ってまいりますと述べられました。

実際本町は、他の町にない支援や助成を実施し、子育て推進においては、他に類を見ない自治体だと私自身自負しております。

子育てしやすい環境にしようという町の姿勢は、私を含め町民の皆さんも高く評価しておられると考えます。

宮迫武蔵・オノリご夫婦より南大隅町の子どもたちのために使ってほしいと遺贈された浄財を活用し、更に、子育て世代の方々の声を政策に反映していただきたいと思い質問させていただきます。

宮迫武蔵・オノリ教育基金を活用した小学校中学校入学支援金、修学旅行助成金、奨学金償還助成補助金など、子どもや保護者にとって大変有り難い支援ですが、宮迫武蔵・オノリ教育基金の現在の残高と、令和5年度において基金を幾ら取り崩し活用されたのか伺います。

教育長（山下四郎教育長）

議員がおっしゃるとおり、今紹介しました様々な支援、そしてまた、経済的支援により保護者が子どもの学校行事やPTA、また、家庭教育等の講演会等に参加する機会が少しでも増えたり、また、保護者が子どもとゆとりを持って向き合うそういう時間が増えることで、子どもたちのより良い成長に繋がったり、また、子どもたちの幸せに繋がることが、この武蔵・オノリ御夫婦の思いに応えることになるかなというふうに私も思っております。

今質問がありました残高等につきましては、教育振興課長に答弁させます。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

ただいまのご質問にお答えいたします。

基金残高は、令和5年度末で1億5千5百80万9千円、1億5千5百80万9千円でございます。また、令和5年度において1千1百33万8千円、1千1百33万8千円を取り崩しております。

1 1 番（大坪満寿子議員）

大変有り難い貴重な財源であると私も承知しております。この財源をもとに色々

な支援をしている南大隅町ですが、現在の根占地区、佐多地区それぞれの児童生徒数と、5年後の児童生徒の予想数は何人か伺います。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

ただいまのご質問にお答えいたします。

現在、神山小が167人、167人、佐多小が23人、23人、根占中が129人、129人、第一佐多中が23人、根占地区で296人、佐多地区が46人、合計で342人でございます。

また、5年後ですが、根占地区236人、佐多地区20人、合計256人と見込んでおります。

1 1 番（大坪満寿子議員）

佐多地区と根占地区を比較すると、小学校で144名、中学校で106名、合計で250名の差があります。

入学支援金については、根占地区も佐多地区も一律同額支援なんですけど、修学旅行に関しては、同額助成のようになってそうではないようです。どこに行くか場所や距離でも旅費に違いが出ますが、佐多地区と根占地区間の距離の問題で貸切バスの値段も異なります。

また、佐多地区の生徒数が少ないため根占地区と比較すると、佐多地区の生徒の1人当たりの単価が割高になり保護者の負担が増えると考えますが、次の質問になりますが、同じ南大隅町の子どもなのに住む地区や人数によって格差が生じることがあってはならないのではと考えます。

根占地区、佐多地区で差が生じないような修学旅行の支援の拡充は考えられないか伺います。

教育長（山下四郎教育長）

では次に、大坪議員の第1問第②項、小学校・中学校の修学旅行支援の拡充は考えられないか伺うのご質問でございますが、修学旅行支援は令和4年度から実施している事業でございます。今年度で3年目を迎えております。佐多小学校、第一佐多中学校は1年おきに修学旅行を実施していますので、令和5年度に1回支援を行っている状況です。

①項目で答弁しましたとおり、現在は定額の支援を行っております。佐多地区においては、根占地区に比べ生徒数の影響もあり自己負担額が高い状況でございます。

より公平な支援とするために、子育て世代の方々の負担軽減と支援拡充を含めた支援内容の見直しの時期にきていると感じております。

1 1 番（大坪満寿子議員）

見直しの時期にきているという前向きな答弁を頂きました。根占地区、佐多地区に住んでいる地域に関係なく、同じような場所に修学旅行に行くのであれば、同じような負担額になるよう支援の拡充を望みますが、町長のお考えをお聞かせください。

町長（石畑博町長）

今お話しされてる分については、教育委員の方々からも色んな立場の方々から要望を頂いてるということで、先ほど教育長から説明がありましたとおり、同じ小学

校のお持ちの親御さんでも佐多地区は高い、これは本当の事実でございます。

今もう既に半額もしくは6割、7割近くを助成をしておりますので、その会議の中でも今回佐多小・中は4月から一貫になりますので、そういったことから、修学旅行、今年間に3百30万から3百90万円の町の負担ですが、これの6割はほぼ今補助をしておりますので、残りがあと大きなお金でありませぬので、そういった方向で無償化をしてもらえんかという要望は来ておりますので、それにつきましては、今申し上げましたような数値も含めて今現在検討中でありませぬので、前向きな取扱いをしていく考えでございます。

1 1 番（大坪満寿子議員）

少しでも早く実現できるよう早急な取組みを望みます。基金にも限界があるとは思っておりますが、しかし、私は基金を活用して教育支援を充実させるのは今だと考えませぬ。

先ほど5年後の生徒数は伺いました。今より約90名減少するとの答弁でした。子どもの数がこれ以上減少してからでは手後れになると考えませぬ。

町が行っている給食費の無償化について国も動き出してあります。実現すれば今の基金を充てているお金が他の支援に活用できると考えませぬが、国が給食費の無償化を行えば基金への影響額は幾らになるか伺います。

教育長（山下四郎教育長）

教育振興課長に答弁させませぬ。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

ただいまの質問にお答えいたします。

令和5年度決算によりませぬと、宮迫武蔵・オノリ教育基金から給食費へは3百95万3千円、3百95万3千円充当をしております。

1 1 番（大坪満寿子議員）

国の給食無償化が実現すれば4百万円弱の財源が確保できます。是非、根占地区、佐多地区に平等に支援が行き渡るような制度にさせていただくよう強く要望させぬ。次の質問をお願いします。

教育長（山下四郎教育長）

次に、大坪議員の第1問第③項、高校生の通学支援は考えられないか伺うとのご質問でございますが、現在は、南大隅高校存続に特化して、南大隅高校に通学する生徒に対してのみ、上限5千円を支援している状況でございます。

一方、町外の高校へ通学させている保護者の方々の経済的負担も大きくなっているということは承知しております。

南大隅高校存続に係る支援との関係や、本町の定住促進、公共交通機関の維持確保、そして子育て支援の充実など、様々な角度から検討していく必要があると考えているところでございまぬ。

1 1 番（大坪満寿子議員）

南大隅高校の存続は非常に重要な課題であると認識しております。定員に満たな

い状況が続いてはおりますが、自転車部が全国的に有名になり、全国から入学希望者が集まるようになりました。また、南大隅高校の魅力を全国に発信するだけでなく、生徒の皆さんが町の情報発信もしてくださっており、大変有り難いと思っております。

一方で、子ども自身が進みたい高校へ進学できる環境づくりも必要ではと私は考えます。

例えば、パティシエや料理人になりたいと思ったら食物コースのある高校、畜産農家の子どもは農業高校、看護師を目指す子どもは看護専門学校の高校など、自分の進学したい高校があるはずです。そうした子どもへの支援はできないものか、近隣の市町村を調べてみました。

南大隅高校と同様に、地元の高校への支援をしている市町村もあります。しかし、支援を拡大して地元の高校への支援だけでなく、町以外の高校に通学する地元の生徒への支援を始めた市や町もありました。私は、子どもの進学に合わせて保護者も一緒に転出するというのを止めたいです。

木佐貫副議長も何回か質問されておりますが、人口流出を避けるため、そして、公共交通機関の利用促進を考える上でも、南大隅高校存続推進事業とは違う角度からの支援が必要ではと考えますが、現在、町内に高校生は何人いるのでしょうか。そしてまた、町内の高校進学の状況を教えてください。

教育長（山下四郎教育長）

大坪議員がおっしゃるとおり、全ての本町に住む全ての子どもたちへの支援、必要なことだとは考えております。

あと、今の答弁につきましては教育振興課長に答弁させます。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

ただいまの質問にお答えいたします。

現在、町内に高校生は何人いるかのご質問でございますが、正確にお答えするのは難しいところがございますが、高校生対象年齢の方は141人いらっしゃいます。

また、町内の高校進学の状況については、現在の高校生は令和3年度から令和5年度にかけて中学校を卒業されています。

それぞれの進学時点での数字ですが、南大隅高校が25人、鹿屋管内の高校が68人、その他地域への高校進学が34人という状況でございます。

1 1 番（大坪満寿子議員）

町内の約半数の生徒が鹿屋管内の高校へ進学されているようです。

先ほども申し上げましたが、人口流出を避けるためにも、公共交通機関の利用促進のためにも、また、子どもたちの夢を叶えるため、町の未来の人材を育てるためにも、通学費の支援を考えるべきではと考えますが、町長はどうお考えですか。

町長（石畑博町長）

今、お話をされましたとおり、今鹿児島交通のバス代が根占鹿屋間が1万9千3百円と聞いております。そうすると、3カ月で5万5千4百円ということでございます。南大隅高校生に鹿屋から来る子どもたちには5千円の通学費の補助として今出しております。

こういった観点から、今町内からの親御さんからも、やはり通学費の補助については他市町村の事例等もあることから、何とか考えてもらえないかということも声も多く聞いているところでございます。

そういった中では、今佐多地区の方々も通学がなかなか厳しい環境にある中では、下宿をされたり、そしてまた寮に入られたりとか、そしてまた、お身内のところに行かれたりということもお聞きしているところであります。

大崎、志布志、曾於の地区は先進的に進んでおりますけれども、本町としてはその部分を鑑みたときには、やはりこの人口流出という部分では大変将来的に町の人口、動態にも影響がありますので、していかなければならないということでは考えております。

ただ、バスの通学のみではなくてバイクの人たちも親が送り迎えもございまして、そういったことを考えると、高校生、親御さん全体の考え方として考えていくべきでございまして、例えば、仮に鹿屋までの通学費の半額とした場合に約1万円弱ですけれども、これが12月になりますと12万ですけれども、先ほど教育振興課長が答弁しました141名を掛け算をしますと1千6百92万円になります。

そうしたことを考えると財源的には色んな部分がございますので、過疎のソフト、そしてまた、宮迫武蔵・オノリ教育振興基金、これを活用する中では可能な分野だというふうには思っております。

ただ、佐多地区の子どもたちはあと5年しますとかなり減っていきますので、それを考えた時には、やっぱりするべきは今じゃないかという考え方でおりますので、今後この事につきましては、実施に向けた形で調整していく考えでございまして、

11番（大坪満寿子議員）

前向きな答弁だと思います。モニターをお願いします。（書画カメラ画像投影）
先日、佐多地区PTAから議会へ提出された要望書です。

抜粋ですが、高校生が鹿屋の高校に通うには佐多からのバスがないため、毎朝保護者が根占まで送迎するなど大変なので送迎していただける環境を作ってほしい。

佐多の子どもたちが引っ越さず、佐多から安心して高校に通える環境づくりをしていただきたい。住みやすいけど子育ての不便なことは多いとありました。

子育て環境が自然豊かな南大隅町の移住定住の鍵になると私は考えます。佐多地区だけでなく根占地区からもバスやバイク通学の生徒がいます。燃料費の支援もしていただくようなご答弁でしたので期待しております。

私は子どもの進学に合わせて保護者も引っ越すというようなことを、どうしても食い止めたいです。また、公共交通機関の利用促進を図るためにも通学支援は必要と考えます。

高校生への通学支援、前向きに検討していただくよう要望して、私の一般質問を終わります。

議長（松元勇治議員）

休憩します。

11 : 09

～

11 : 17

議長（松元勇治議員）

休憩前に引き続き再開します。

次に、平瀬十助議員の発言を許します。

[8 番 平瀬 十助 議員 登壇]

8 番（平瀬十助議員）

総合振興計画は、町の中長期的な発展を支える基盤であり、町の最上位計画と位置づけられる町政運営の指針となるべきものです。

現在、本町の総合振興計画は次期計画を策定中ですが、計画がその本来の意義を十分に認識され適切に活用されているか、また、現在の検証が次期計画に生かされるのかが重要と考えます。そこで、次の3点について質問いたします。

①項、総合振興計画の意義と町政運営における認識について伺います。

②項、第2次計画後期の検証についてお伺いします。

③項、第3次計画の策定方法と進捗状況についてお伺いします。

以上、壇上よりの質問を終わります。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

平瀬十助議員の第1問、南大隅町総合振興計画についての第①項、総合振興計画の意義と町政運営における認識について伺うとのご質問でございます。

総合振興計画は、より良いまちづくりを総合的かつ計画的に推進するための、町政の基本方針としての役割と性格を有し、町の最上位計画と位置づけられております。また、町政運営の方向性を示す重要な計画であると認識もいたしており、現在、令和7年度から令和16年度までの10年間を計画期間とする第3次計画の策定作業を進めているところでございます。

8 番（平瀬十助議員）

総合振興計画に基づいた行政推進が行われているか。

また、計画の意義が明確に認識され、現場で実行されているかお伺いします。

町長（石畑博町長）

実施計画につきましては、毎年予算を編成する段階で当然今までのこの10カ年の計画に入ってる分事業が明確に出してあるのもありますので、それにつきましてはその通りの事業実施をいたしております。

ただ、単年度単年度におきましては、議員皆様方のご要望とかある中では、今新たに出す、各課が出す事業そのものが、今の振興計画のどの条項に紐づけをされているかという部分をきっちり様式のほうに謳って、農林水産業の第何項の何条に該当するという形で事業実施に向けては繋いでおりますので、今現段階では、振興計画に基づいた実施計画に基づく事業実施をされていると考えております。

8 番（平瀬十助議員）

次、お願いいたします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

次に、平瀬議員の第1問第②項、第2次計画後期の検証について伺うのご質問でございます。

第2次計画後期は、令和2年度から令和6年度までの5年間の計画であり、現在進めております、第3次計画の策定作業の中で、これまでの検証を行っております。

検証の手順といたしましては、施策体系ごとの振り返りと現状値の把握、課題の整理等を実施し、その結果を踏まえ、第3次計画を策定することといたしております。

8番（平瀬十助議員）

第2次総合計画の達成度や成果をどのような方法で検証したのか。

また、次期計画にどのように反映する予定なのかお伺いします。

町長（石畑博町長）

今現在策定中でございますが、今ご質問の経過等につきましては、担当課長のほうに説明させます。

企画観光課長（中之浦伸一課長）

現在進行中の第3次計画の策定作業を進めておりますけれども、作業の内容といたしましては、各課、係ごとに委託業者によるヒアリングを行いまして、これまでの事業を検証した上で現状と課題を整理しているところでございます。

また、達成度につきましては、これまでの振興計画の中では明確に指標としてございませんでしたので、今回新たな計画を策定するにあたりまして、現状値と目標値を新たに計画の中に設定することとしております。目標値を設定することで、今後の事業推進の成果が明確に可視化できるようになるという考えで取り組んでいるところでございます。

8番（平瀬十助議員）

次、お願いいたします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

次に平瀬議員の第1問第③項、第3次計画の策定方法と進捗状況について伺うのご質問でございます。

まず、策定方法についてでございますが、職員で構成する策定部会及び策定委員会で計画素案を策定し、各種団体長等で構成する審議会へ諮問いたします。その後、パブリックコメントや審議会での審議、答申を経て、来年3月会議におきまして議案提出したいと考えております。

進捗状況についてでございますが、現在、策定部会での素案作成が終盤になって

きているところでございます。

8 番（平瀬十助議員）

次期計画の策定において、町民や各種団体が十分に関与しているのかお伺いいたします。

町長（石畑博町長）

策定に関しますかかわりの詳細につきましては担当課長に説明させます。

企画観光課長（中之浦伸一課長）

次期計画策定に関する町民の方、それから各種団体の参画についてでございます。

まず、令和5年度に町民の方及び各事業所を対象にアンケート調査を実施しております。また、審議会につきましては、町内各種団体長の方など17名に参加頂きまして、計画素案を審議していただくところでございます。

最後に、パブリックコメントについてです。役場本庁、それから支所に設置するとともに、町ホームページにも掲載して広く意見を求めようとする計画でございます

8 番（平瀬十助議員）

町長が考える次期計画の特徴、重点的に取り組むべき課題をお伺いいたします。

町長（石畑博町長）

総合振興計画につきましては、本当にこの重要な位置づけをしておりますので、今現状のまちのイメージを考えますと、高齢化率が高い部分、そしてまた、児童生徒数が減っている環境、その中でも移住定住も増えてきつつ、そしてまた、今の後継者の方々、地域での色んな活動をされてる方々、色んな方々が町の存続に向けて一生懸命汗をかいていただいております。

そういった中では、やはり第2期の振興計画でもありましたとおり、やはり本町を支えていただいております第一次産業の皆様方の部分というのは、この方々が一番今地域の中でも、地域を支えていただき、自治会を支えていただき、そしてまた、消防団に加入され、地区の公民館で役員をされ、色んな部分で地域を支えることが町を支えていくという形に皆さん方が頑張っていっぱいます。

それを考えますと、やはりこの第一次産業の振興という部分から含めたときに、この第一次産業に従事をされてる方々というのはやっぱり大事にしていかなければならないということ、これは特にこの台風等の避難等のときとか色んな部分で、地域住民、特にご高齢の方々からはそういった意味では感謝をされているというふうに思っております。

そういったことから、第一次産業をきっちり若い方々、頑張っていっぱいやる方々、そしてまた、生きがいで頑張りっぱいやる方々いっぱいやるけれども、町の先が見えるという部分では、農林水産業こういった方々をやっぱり重点的な部分としては支えていって、存続の要となりますので大事にしていきたいということで考え方を持っております。

8 番（平瀬十助議員）

次に、目標人口について伺います。

人口6千人に留めるという目標を掲げてありますが、実情は6千人を割り込んでいます。これについて町長の感想をお伺いいたします。

町長（石畑博町長）

この人口減少の波という部分については、本当に全国的な流れもありますけれども、非常に心配もいたしてるところでございます。こういった環境下でもございませぬけれども、前期の目標としては6千人に留めるという目標がございました。

その中でも、これは人口問題社会保障研究所推計の中では出た数字としては5,367人この数字だったんですけども、これを6千人に留めるという形でしております。今現在は、11月末で5,939人となっております。

ただ、人口も自然減の部分とそれから学生さんたちが出られる方もある、これは減少もありますけれども、今現在では、地方に郷を求めて来られて、交流する人口も増えてきております。

そういった中では、交流から移住をしていただいて移住から定住という形、こういった方々も数多くいらっしゃいますので、今朝ほども南日本新聞に記者の目に載ってましたけども、ああいった本当にこのイメージの良いお話もありますので、人口につきましては、減っていくことはどうしても致し方ない部分もありますけれども、その中でもこちらにおいで頂くような、そういった方々が住んで頂けるようなまちづくり、空き家もやはり財産として空き家も魅力という部分ではそういった方々への取組みもしていきたいというふうな考え方をしております。

8番（平瀬十助議員）

今ちょっと人口問題を町長述べていただきましたですけども、どうしたら歯止めがかかってくるかと、或いは年月は掛かるでしょうけれども、どういう施策を持って行って歯止めをかけるかと。先ほどからの町長の発言の中で、やっぱり一次産業の振興ということから町に活力を与えて歯止めをしたほうが良いというような聞き取り方を私はしたんですが、そういう方向性でよろしいでしょうか。

町長（石畑博町長）

やはり、第一次産業の方々は本来のご本人の業務だけじゃなくて、地域活動これに色んなふうに関わっておられますので、そういった方々がやはりこの企業体という形にも将来はなっていくように、産業振興としては、農林、漁業、水産、畜産、林業全部を大事にしていきたいという考え方でございます。

8番（平瀬十助議員）

人口問題からやっぱり各論とか、そして実施計画を作成すれば、やっぱり施策的に非常にやっぱり無駄な予算が出ていくような気がしております。

ですから、一次産業を中心とした産業振興と各論からやっぱり人口問題にいくような、逆から考えて振興することによって私は歯止めがかかるんじゃないかと思っております。まとめます。

総合振興計画の基本構想、基本計画、実施計画、過疎地域自立促進計画を再度読んでも、ならどうするの、という感想を拭い切れません。それは、進行し続ける人口減少が背景にあるからだと思えます。

人口減少は、消費市場の縮小や労働力不足など需給両面において地域の活力を衰退させる大きな要因となるからです。

かつて、西郷南洲が愛したこの地は、多くの景勝地を有した自然豊かな土地であります。郷土を愛し、一丸となって取り組む為にも現行の計画を大幅に見直し、官民一体となり、新たな産業を興し、躍動する町づくりを目指す必要があると私は思います。この町の是とは何なのか、この町の将来とは何なのか、明確な目標を立てることが重要であります。総合振興計画は町の未来を切り開くための羅針盤であり、その策定過程で町民と行政、議会が一丸となることが重要です。

次期総合振興計画が、計画の実効性を高め、町の発展を推進する計画となることを期待して、私の質問を終わります。

議長（松元勇治議員）

次に、幸福恵吾議員の発言を許します。

[10番 幸福 恵吾 議員 登壇]

10番（幸福恵吾議員）

先に通告いたしました一般質問について、職員の働き方と魅力ある職場環境づくりについて伺います。第①項、令和3年6月と令和5年9月の一般質問で職員の働き方について伺いましたが、町長が自ら公言された業務の効率化と既存事業の見直しについての進行状況についてお伺いします。第②項、今後、町長が思い描く町の姿を踏まえて、今考える適正な職員数、直近の採用状況、今後の採用についての町長の考えを伺います。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

幸福恵吾議員の第1問、職員の働き方と魅力ある職場環境づくりについての第①項、令和3年6月と令和5年9月の一般質問で職員の働き方について伺ったが、業務の効率化と既存事業の見直しについて進捗状況を伺うとのことのご質問でございます。

1つ目の業務の効率化についてでございますが、第1段階として職員の時間外業務や休暇の取得状況を労働衛生委員会等で、現況把握と分析、今後の改善点などを協議しております。

その状況を踏まえて、職員の労働効率を上げるための有効な事務改善策を進めており、それまで手書きやアナログ管理していた事務をデジタル化することで、削減効果を上げております。

2つ目の既存事業の見直しについてでございますが、先ほどの事務改善で得られた余力を活用して、事業見直しのための効果検証や代替手段の検討を行っております。

既存事業の見直しについては、町民の皆さまにも影響が大きいことから、業務効率と町民への影響度の両面から進めているところでございます。

10番（幸福恵吾議員）

職員の働き方について、現在の勤務状況について評価をされたということだったんですが、実際具体的に現在どういう状況で、そこについて町長がどういうお考えを持っているかというのを伺います。

前回、前々回と私が既存事業の見直しについて伺ったと思いますが、そこを踏まえて、時間外で労働環境について今どういう状況であり、どういう考えを持っていらっしゃるかお答えをお願いします。

町長（石畑博町長）

毎年予算編成にも協議もする中で、今デジタルを駆使した時間外勤務の削減とか、そしてまた、外部委託をすることが効率的な部分は効率化をしているところでございます。

それに基づき、前回議員がおっしゃいました時期の部分からは職員の業務効率というのは上がっておりまして、余力も出ているのかなという感じもしておりますけれども、ただ、それに加えてまた新たな業務が発生してきていることから、なかなかその中で職員が働く環境に大きく変わったかという部分では、まだそこまでは達していないのかなという気もいたしております。

あと、詳細につきましては具体的な部分は総務課長に答弁させます。

総務課長（熊之細等課長）

まず、職員の関係ですけれども、基本的にはペーパーレス化に取り組んでおります。決裁のときの電子化による効率化を図ろうということで、時間外手当であったり、出張のときの申請等、今まで紙でやっていた部分を電子決裁でして課長まで決裁を頂くという流れを取っているところでございます。

また、これまで自席のパソコンから外部メール、或いは、インターネット環境が、課に1台もしくは2台程度パソコンが置いてあってそこからそれぞれ確認をしていたんですけれども、本年度からはそれを一元化して自席から出来るようになったということは効率化に繋がっているものと考えております。

そのようなことから令和4年度、5年度、時間外等を比較してみれば、勤務も休暇等も合わせて成果が出ております。減に繋がっていると感じております。

ただ、年度ごとの災害があった年であったり、或いは新たな事業が入ってきた年であったり等する部分については、若干負担が強いられている部分もあるのかなというふうに考えております。

10番（幸福恵吾議員）

職員の労働環境を考えた上で、時間外勤務、休暇の取得状況とあると思うんですけれども、実際具体的な数値というのは示されなかったんでしょうか。

町長（石畑博町長）

それに特化した数値は定めていませんけれども、ただ、予算編成時においては対前年比の比率というのが出ているところでございます。

10番（幸福恵吾議員）

既存事業の見直しを行うことで、職員の現時点での労力を減らしていくというところの中で、時間外勤務、休暇の取得状況というのは数値的に出てくると思い

ます。目標数値についてはなかなか設定がしにくいところではあると思うんですが、実際その数値をきちっと目標を決めてやらないと、事業の見直しというのがどうしても積極的に進めていけないのかなあとというところがありますので、やっぱり数値目標の設定というのはぜひやって頂きたいところがあります。

そういった点も含めて事業の見直しの観点からいくと、各課事業の中でDX化というのが非常に一番進められるべき点ではないかなあとと思いますが、デジタル推進課の設置も含めて、現在DX化事業の見直しの点においてDX化がどういうふうに進められているかというのを教えてください。

町長（石畑博町長）

本年4月からのスタートでございましたので、まだそれが大きく見えたかという部分ではまだ年度途中でございますけれども、今取り組んでいる部分につきましては、デジタル推進課長のほうに答弁させます。

デジタル推進課長（佐藤ひとみ課長）

では、私のほうからデジタル課のほうの業務効率化につきましてご説明いたします。

先ほども総務課長のほうからご説明もありましたけれども、まずはペーパーレス化に取り組んでいこうということで、決裁の電子化だったりとか、時間外手当、先ほども出ましたけれども、出張等の申請につきましては勤怠管理システムというものを導入したりとか取り組んでいます。

また本年度というか昨年度からなんですけれども、SGateというものをちょっと導入いたしまして、今まで各課に1台から2台しかなかったインターネットができるパソコンや、外部とのメールのやりとり、こちらのほうだったり、あとは公用車の運転日誌等も電子化などをさせていただいて取り組んでおります。

また今年度中におきましては、公会計と文書管理の電子決裁を導入していきたいと考えております。

業務効率化を目指して、来庁者も対応する職員も、作業の負担と軽減や時間短縮に繋がるようちょっと取り組んでいるところでございます。以上です。

10番（幸福恵吾議員）

デジタル推進課については今年度の設置ということで、これからどんどん事業としては進んでいくことになると思うんですが、実際、総務課の電算係としては、実際、現在職員の中でも民間登用という形で複数名の職員がいらっしゃると思います。

この事については、他の町と比べて非常にこの技術的に優れた職員がデジタル推進課の中にいると思われませんが、実際今行っている事業については先進的なものなんでしょうか。

それだけ人がいるということは、もっと活発に事業が進められるような気はするんですが、見ていて技術的な専門的な知識を持った人間が実際課の中でも情報管理係とデジタル推進係に分かれているところあると思うんですが、エンジニアとして情報管理やトラブル対応に追われていて、企画立案がなかなか進んでいないという状況があるんじゃないでしょうか。どうでしょうか。

町長（石畑博町長）

それもちよっと感じてはいるところです。

ただ、デジタル化になる時に、いわゆるパソコン操作を職員が皆さんが同じやっぱりレベルまでなっていくことがネットワーク等の推進が上手くいくと思うんですけども、今現在、それぞれの自治体ごとに国の流れに繋がる色んなこの系列があるもんですから、例えば、事業者が ABC ありますので、その流れをいった時にその流れのスタンスで末端が決まっていますので、それについてを今議論をしているところでありまして、鹿児島県内でも色んなパターンがございますので、県の DX アドバイザー等の意見も聞きつつあるわけですが、それ踏まえて、新たなうちの町はどうすればいいかという思想もございますので、それをどうしていくかという部分を今現段階で詰めているところでありまして、来年度当初予算には反映させていきたいということではありますけれども、今おっしゃいましたとおり、いわゆる職員のパソコン操作へのアドバイスも含めて、今いる民間から来られたその方々につきましても、本当に忙しい日々を過ごしておりますので、・・につきましても、引き続き取り組んでいなければならないということは感じております。

10番（幸福恵吾議員）

デジタル推進課については、非常に能力のある職員の方いらっしゃるもので、今後考えると、この DX 化が進む中で、本当にパソコンに職員 1 人分 2 人分のこの事務的な作業をさせるというような考え方でマンパワーを補っていく、或いは、職員の余力を作っていくというような観点でぜひ動いていただきたいなと思います。

軽微な作業をどんどんさせるというところでマンパワーを補うというよりは、専門的な知識を生かした形で事業を進めていくような視点を是非持ちながら生かしていただければと思います。

次をお願いします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

幸福議員の第 1 問、職員の働き方と魅力ある職場環境づくりについての第 ② 項、適正な職員数、採用状況、今後の採用についての町長の考えを伺うとのご質問でございます。

12 月 1 日現在の一般職の職員数としては、113 人でございます。

このほか、再任用職員が 5 人、学校関係や診療所、給食センター、観光案内所等に配置されている会計年度任用職員が 74 人となっております。

自治体の職員数については、人口規模や面積、その他の地域事情を勘案しながら、事務事業が効率的に進められる体制を確保していく必要があり、その観点から現在の職員数については、適正な範囲内にあると考えております。

このことから、定年延長制度が確立する令和 14 年度までは 110 人程度の職員数を維持することが望ましいと考えており、退職で減少した人数を新規採用で確保していく方針でございます。

10番（幸福恵吾議員）

今年度行われた職員の新規採用の試験の応募と採用状況というのが分かりますか。

町長（石畑博町長）

数字につきましては総務課長に答弁させます。

総務課長（熊之細等課長）

本年度9月に採用試験を実施しましたが、応募がありましたのが6名でございました。それで2次試験まで経て、今登録してるのが3名となっているところでございます。

10番（幸福恵吾議員）

今採用試験の状況を聞きまして、応募が6名で採用予定が3名という形になると思いますが、正直ですね、今全国的に見て非常に公務員が採用について応募についてなかなか教員等もよく言われてますが難しい状況にあると思います。

民間に人を取られるというか、自治体の職員になって町のために働いていくということに関して、給与も民間と比べて低い中でストレスだったりとか労力というのが掛かってくればというのは非常に理解できる場所ではあるんですが、それだからこそ、うちの町としてお金以上に魅力のある町、働きやすい職場、自分の力が生かしやすい職場としての環境づくりを進めていくとともに、そして、それをPRしていくというのが必要だと思いますが、町長はどうお考えでしょうか。

町長（石畑博町長）

まさにそのとおりだというふうに思っております。

今回、採用試験の中でも6名いらしたわけですが、色んなご意見を皆さんお持ちで、ライフスタイルの変化とかでありまして、今公務員の環境が1回採用されたら定年までというのはほとんど崩れておりまして、もう皆さんが一旦勤めてみたら、また新たな仕事もやってみたいというそういった環境下でもある中でございますが、そういった方々だけではなくて、また新たな考え方で地方行政を幅広く勉強もしたいというそういった方もいらっしゃると思いますので、そういったことでは、南大隅町に行ったらこういった仕事の中で出来ていくよというようなそういった部分もPRをしながらしていきたいと思っております。

ただ、先ほどのデジタルの部分もありましたけれども、九州熊本のTSMC等にほとんどが引っ張れる環境も非常に大きくなりまして、鹿児島県内のほとんどの市町村がデジタル化に向けた部分では、非常に苦戦しているところでありまして、募集はしますけれども、なかなか応募がないという部分、原因的には大卒初任給がかなり向こうは破格の給与体系ということが原因というふうには見ているところではあります。

いずれにしても、町として魅力ある町だから働いてみようというPRとしてはしていかなければならぬという形では考えております。

10番（幸福恵吾議員）

今町長からもありまして、職員が自分の生活のスタイル、今後の人生を踏まえて、退職をして他の道を選ぶというところも選択としては自由だと思います。

す。自分のキャリアを生かして、更にステップアップしていくというところも前向きな判断であると思うんですが、ただ、職場環境の中で自分の力がやっぱり生かしきれないというような考えを持って、そういう決断をされるというリスクはできるだけ減らしていただきたいなあと思います。

そういった観点でいくと、今後DX化が進んでいく中で、異動があったとしても次の業務をスムーズに行えるような環境作りというのは、ぜひDX化の中で取り組んで頂きたいなあというところですよ。

そして、今現在職員がそれぞれの個々の能力をいかせているかというところにおいては、人事異動、配置というのは非常に大事だと思います。

そこについては町長の専権事項であって、町長が気になることだと思いますが、そこを踏まえて、人事異動配置について、現在町長が1番考えられていらっしゃる。適材適所なのか。プロフェッショナルの育成なのか。その中で頭の中で町長が1番強く思っていること。というのを伺います。

町長（石畑博町長）

採用段階で、専門職としての採用もいたしておりますので、そういった方々はそれなりに生かしていく考えでございます。

ただしかし、町の職員という立場では、幅広く行政経験をしなければならないということから、これまでも、専門職の方々も、2年ないし3年間につきましては、一旦事務職を経験するという事は回しておりますので、特にもう建設課とか経済課、それから、介護福祉課等、そういった方々も1回はやはりこの事務の経験をさせて、そしてそれから町民との触れ合いの中で、新たなまた専門職を生かしていただけるというそういった流れをつくっていくべきというふうに考えておりますので、そういった部分では、少しずつでございますけれども、取り組んでいっているところでございます。

10番（幸福恵吾議員）

今町長の考えをお聞きしてこそなおさら先ほど私が言いました異動があったときに、それぞれの職務についた時に、スムーズに仕事に移行できるように、そこでつまづくことがないように、というふうにDX化も含めて検討していただければと思います。

そして、関連してというか職場の環境の問題の評価というか一つにもなると思うんですが、これも全国的に、非常に問題になってると思うんですが、管理職離れがあると思うんですが、現状として、来年の3月、4月、数名の現在の課長の方々が退職される予定にあると思うんですが、そういった中で、実質、13名ですかね、課長職、に対して、職員の配置、管理職になりたがらない職員というのがあるってというような傾向があるってのも、お聞きしたことがあるんですけども、そういった考えの中で、今後管理職についての考え方、希望、話について町長の考えをお聞かせください。

町長（石畑博町長）

毎年職員のいわゆる人事等に関する意向調査と、ご本人の考え方を聞くアンケートを取っております。

そういった中で今おっしゃったとおり、特に、管理職登用については望んでい

ないということも多いわけですがけれども。

それはしかしながら、職員としてやっぱり公務員できて職員できた以上は、そういう職責もあることから、それなりのポジションという部分はやっぱりしてもらわなきゃなりませんので、ただそれを無理強いをしてすることはいけませんので、直前にやはりこのご本人と面談をして、そして登用に向けた流れをつくっているところであります。

ただ今回退職も6名7名おりますけれども、多くの方が定年延長の規定を運用されますので、急激にその課長ポジションは減りますけれども、人が減るといふ部分じゃありませんので、そういった部分では、行政の停滞についてはありがたいかなというふうに思っております。

議長（松元勇治議員）

休憩します。

1 2 : 0 3

～

1 3 : 0 0

町長（石畑博町長）

会議を再開します。

10番（幸福恵吾議員）

今回一般質問において、職員の働き方と魅力ある職場環境づくりというのについてお伺いしましたが、今までの話の中で、専門的なスキルを持った職員を生かして、スムーズにDX化を進めて、基本的な事務的な業務を、簡略化していくというところ。

あるいは勤務、事業の見直しについて基準を作って、その基準をクリアするような取り組みっていうのをお願いしたいなと思いつつながら、今の話の中でそれを行うことで、業務が、今職員にかかっている負担が減って新しい業務を生む原動力になるのではないかとこのところ今まで、今頭の中でなっていたんですけど、今昼考える中でどうも腑に落ちなくて、ただ、何なのかなあと思ったんですけど、ふと思ったのは、話変わるんですけど、今朝、私の小学校3年生の娘がいるんですけど、話の中で、「パパ今日議会でしょ。議会で、ユニバーサルデザインのこと言ってほしい。」と。何でって聞いたら、「もっと、スロープをいろんなところにスロープ付けたりして、車椅子数に乗っている人たちが通りやすいようにしてほしい。」て言ったんです。うん、分かったって言ってそれをここで言ったんですけど。

そう思ったときに、これは、昨日小学校3年生の福祉の授業の中で役場訪問させていただいて、介護福祉課の職員にユニバーサルデザインについての説明を受けた上で、うちの娘が考えた事だったんですけど、うちの娘は南大隅町にずっと住みたいって言うてるんです。自然豊かなこの町でずっと住みたいって言うていて、そういった思いの中で、町のためにというか、小学校3年生でこういった考えを持っているっていうこと、このパワーってやっぱすごいんじゃないかなあと思います。

そう考えたときにうちの子が30年後、ここで生活をする上で町が成り立っているのかな。町がどうなってんのかな。っていったときに、やっぱりここだなあと思ったのは今変わらないと、と。今変わらないと、ここ数年でも徐々にやっぱり町は衰退していると。今、希望ある子供たちが大人になったときに、町が良い形で残るように、今何かをやっぱり行わなければならないっていう考えの中で、今、何か策を出しているか、人口減少であったり、財政の問題であったり、そういったところで、積極的な策を打ち出しているかっていうところで、やっぱりちょっと足りないのではないかと、いうところをやっぱり感じました。

そういったところで、今職員の働き方についても、町の財源を預かる中で、その財源を生かした積極的な政策というのを打って出る。ということがやっぱり大事ではないかと思っています。そのためにも、今の業務の見直しを行って、事業を再構築していくという必要性があるのではないかと考えます。

そういった中で、私も今回、もうこれ結局自分自身もやっぱりしなきゃいけないこと。現状のこの町の流れの中で、やっぱりしっかりと、この事業の見直し及び積極的な政策の立案について具体的な策を自分の議員としての職務としても、出さないといけないな、と。人のせいにはしてはいけないな、と。小学生でさえこういう考え方持っているのに、大人として、議員として、地域の住民として当然職員とともに、町民全体で取り組んでいかなければならない課題かなと思いました。

非常にこの、最後までめではないんですけど、最終的にはこの職員の働き方についてはやっぱり枝の部分、やはりやらなければいけないことは、本当に町をやっぱりよくするために、積極的に、新しい見方、考え方、今度地方創生交付金も、増額されるということでそういうところをどういった形で使っていくのかということを含めて考えていかないといけないのかなと思います。そういったところも含めて、もし町長の考え方があればお願いします。

町長（石畑博町長）

今おっしゃいましたこと、子供さんの中でそういった発想があるというのは本当に大事なことであって、先を見たそういった発想というのは本当に大事だなというふうに思っております。

職員の中の働き方改革という部分では、やはりこの私1人ができるもんでもないし、また議会の皆さん方のご意見も聞きつつ、職員一人一人に余力を持たせる環境をつくっていかないと、職員が担当する仕事に追われていては、また新たな発想もできてきませんので、そういったことを考えたときには、今、これまで話が出てるとおり、DX化等を含めた形で余力を見いだした中では、職員がまた職員同士の会話の中そしてまた予算編成にも反映させるべき力をつくっていくことが、職員もやはりこの町の職員である以上は、頑張っていけないといけないという考え方を持っておりますので、そういった環境になりうる職場環境の改善、ここについてはやはりまた今以上にまた努力もしていきつつ、人口減少下でありますけども、業務もまた新しい業務、これまでなかった業務も発生してくることもございますので、そういったことを踏まえて、適正な人事異動そしてまた、職員の能力が上がるような研修の機会、そういったものを含めて管理運営をしていきたいというふうに考えておりますので、引き続きまたご意見等を賜ればと思います。よろしく申し上げます。

10番（幸福恵吾議員）

以上で私の一般質問を終わります。

議長（松元勇治議員）

次に、木佐貫徳和議員の発言を許します。

[12番 木佐貫 徳和 議員 登壇]

12番（木佐貫徳和議員）

令和6年を振り返ってみますと、今年1月に、能登半島地震、8月には、宮崎県南部で震度6弱の地震、10月には台風上陸など自然災害が多い年でした。いつ起こるか分からない自然災害に対して、日頃からの備えが大切であると感じております。

さて、12月議会の通告書のとおり、次の質問をいたします。

1、町長の2期目立候補表明について、①項、1期4年の成果をどのようにとらえておられるのか伺います。②項、2期目の立候補で、どのようなことを町民に訴えていくのか考えを伺います。

2番目、高齢者福祉対策について、①項、現在の介護認定状況で、介護老人福祉施設入所待機者について伺います。②項、山村交流施設でのデイサービス状況について伺います。③項、佐多地区、旧介護老人福祉施設の払下げの経緯について伺います。

3番目、行方不明者対策について、①項、現在の防犯カメラ設置状況と、増設は考えられないか伺います。②項、いろいろなGPS機能の機器があるが、家族の同意を得て利用は考えられないか伺います。

以上で、壇上からの質問を終わります。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

木佐貫徳和議員の第1問、町長の2期目立候補表明についての第①項、1期4年の成果をどのようにとらえているかを伺うとのご質問でございます。

就任時に即戦力をキャッチコピーとして掲げ、大きな三つの思いとして、第一次産業の支援、子育て世代の支援、自治会活動の支援と10本の柱を礎に、町民皆様のご意見を拝聴し、掲げた政策を私なりにお約束したことを着実に進めております。

具体的には、持続可能な産業支援や重機等導入による労働力軽減、スマート農業の推進、学校給食の無償化とあわせ、保育料の無償化、修学旅行支援、また、自治会支援として、無線放送親機への全額補助や、自治会要望に沿ったスマイル支え合い補助の拡充、コミュニティーバス小型化によるきめ細かい運行、移住定住への取り組みなど、町民生活に密着した事業に取り組み、一定の評価を頂いていると考えております。

いずれの取り組みにつきましても、町民の声を大切に現場に足を運び、町政の課題解決として、議会のご理解を頂き、1期目の政策基盤が着実に成果を出したと私なりに、考えております。

12番（木佐貫徳和議員）

町長就任時の施政方針を私は読み返してみました。やっぱり町長が今、答弁されましたように、大きな三つの親柱、第1産業、商工業の振興、子育て政策のさらなる拡充支援、自治会活動の活性化支援を挙げられておられました。そしてそれを三つの柱を親柱として、十の項目を挙げておられまして、予算を計上されて、議会と議員の皆さん方と議論を重ねながら、いろいろ施策をやってこられまして、着実に成果が出てきたと私なりに感じておりますけども。

私は今、この本町は、高齢化率鹿児島県一というふうに、言われております。

そこで、町長の要するにさらにもう一つ私は追加したほうがいいんじゃないかと思う項目があります。それはやはり、高齢化の町でありますので、高齢化支援事業であります。私の2問目3問目に通じてくるんですけども、高齢化の方々が安心して住めるまちづくり、大事であると感じております。

我が町はもう半分以上が、高齢者の方々です。町長はこの高齢者支援について、どのように考えていらっしゃるか、そこをお伺いしたいと思います。

町長（石畑博町長）

就任してから3年、それくらいたちますけれども、その当時はコロナ禍の真っ最中のごさいまして、なかなかこの活動もできなかつたわけですけども、それ以降におきまして、やはりこの活動の低迷もある中では、団塊世代の方々が、それなりの年齢に達された中では、働く人たちが減ってきたというのも一因であったり、そしてまた加えて物価の高騰等も出てきてる中で、いろんな要因が重なって、町の産業等にも、いろんな影響が出ていることは、これはもう事実であります。今議員がおっしゃいました高齢者の支援という部分では、特にもう65歳以上が半分以上でございまして、1番考え方としてはもう、真寿園さんのほうが、働き手不足で、閉園されたということ。私どももいろいろ手だてもしましたけれども、なかなかこの条件的に合わない部分等もございまして、今現状、こうしてもう今、蒼水園さんのほうが、一施設となったところであります。

それを鑑みますと、デイサービス等のサービス提供、そしてまた、ヘルパー等のサービス、こういった部分が、もう危機的な状況じゃないかという感じも受けているところでもあります。

それを考えたときには、やはりこの高齢者支援という意味も含めてですけども、福祉の部分の総合的な福祉、高齢者に対するサービス、これはどうしても重要だと思っておりますので、これには本当に取り組んでいくべきかということはもう十分認識をしているところでございます。

12番（木佐貫徳和議員）

今、町長が言われたように、コミュニティバスの運行や、運転免許証返納者に対するタクシー券の配布、それから、敬老金支給、買い物支援など、いろいろ高齢者対策というのは、事業化されておりますけども、まだまだ足りないところは、あると感じておりますので、高齢者支援のいろんな事業を取り入れていただいて、住みよいまちづくりに、つなげることは大事だと思いますので、そこら辺を、訴えていただきたいと思っております。次の質問、2問目をお願いいたします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

木佐貫議員の第②項、2期目の立候補でどのようなことを町民に訴えていく考えか伺うとのご質問でございます。

1期目の第一次産業の支援、子育て世代の支援、自治会活動の支援に新たに、喫緊の課題である福祉サービスの充実を掲げ、人口減少の波に負けない持続可能な南大隅町発展のため、小さな町だからできることにはスピード感を以って取り組んでまいります。

本町の世代ごとの人口や産業の構成、地域自治会の現状、福祉、高齢者支援の状況と、町民皆様の声を隙間なく掌握し、各種団体からも多くのご要望を頂いておりますので、過疎化の中でも、町民皆様に町の支援を公平にお届けできることは即実行し、健康で生きがいを見いだせる、健やかな幸せ「健幸」なまちづくりを目指していきたくと考えております。

人口減少が顕著なことから、子育て世代や、地域を支えておられる方々から、日常生活面や環境整備などへ多くの声を頂いておりますので、お一人お一人のご意見を大切に、これまで同様、即戦力で応えてまいりたいと考えております。

町民皆様に喜んで頂けるまちづくりから、誇れるまちづくりに向かって、議会の皆様のご理解を賜り、取り組んでまいりたいと考えております。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

町長の1期目の4年間は、コロナ交付金があったり、それから合併特例債というのがあって、有利な財源があったんですけども、今、答弁された2期目の町民への訴えは、今後、辺地過疎債などを活用しながら、やっていかなければ、財源的に非常に厳しいものがあると思うんです。

今、石破総理が、地方を大事にするふるさと創生事業というのを、大幅に予算を計上されていくと発表されておりますけれども、具体的には、まだ国の方針が示されておられませんので、なかなか答弁しづらい、できないと思うんですけども、このふるさと創生事業の活用を町長は今答弁されたように、どのように活用されていくのか、ちょっとそこをお尋ねしたいと思います。

町長（石畑博町長）

今、国会の中でも話に出ておりますけれども、地方創生臨時交付金になります。今議論されてるのは、令和6年度の補正予算です。これがまた、令和7年度にも出てまいりますので、今の6年度のメニューの中にも、大きくは8項目のメニューがありまして、いわゆる物価高騰支援がメインになっております。その中での中身というのは今、目を通しておりますけれども、ほぼ国民皆さんに全て網羅できるような内容であります。

ただその中では町が、その今の臨時交付金を活用するにあたっては、町の考えが優先ということで、先だって、全国町村長大会等もあったわけですけども、独自性を出すためのそういった支援の在り方を、町独自の考え方でして頂きたいという、そういった流れであります。

それを考えましたときには、これは1番、物価高騰に影響のある方々、働いても働いてもなかなか利益を生み出せないという、そういった、物価高騰等のあおりを受けてる方、こういった方々への支援ということでは、それを優先的にしていきたいと思っております。

もう既にこれまでも、町民皆様方には、物価高騰の支援のお1人5000円の応援商品券ももう2回しておりますし、せんだっていろいろな部分に、漁協の今回の12月のカンパチ等にもしておりますので、それを併せたときにもまた現状では、第一次産業に対する部分では、まだまだこの農家の方々には厳しいものがありまして、先般9月にも予算をお願いして、しましたけれども、それでもありがたいとおっしゃいますけれども、まだまだ今のマイナスの部分については、なかなかそれだけでも達しないということでもありますので、今後、1月末から2月に今年度分の補正予算が来るんですけれども、それまでの段階で、こういった使い方がいかという部分は職員、それから庁議、職員からの意見も踏まえて、議員皆さん方のご意見も賜りつつ、今すべきこと何かということ、絞り込んでいきたいという考えでおります。

12番（木佐貫徳和議員）

町長が言われた事業について、間々で付加価値をつけて、持続できるようにしていただきたいと思っておりますけれども、今までは、よく、ほかの町がやってたから、真似をして、事業をするというのが、大半だったと思うんですけれども、このふるさと創生事業は、私は思うのは、職員が一人一人、知恵をしぼり、アイデアを出すべきだと思いますので、南大隅町の、独特なアイデアを考えていただきたいと思っております。

町長が2期目の立候補に対して、訴えられることは、町民が判断されるということでもありますので、その思いを、あらゆる場所で訴えていただいて、言っていただければと思います。

それでは次の質問をお願いいたします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

木佐貫議員の第2問、高齢者福祉対策についての第①項、現在の介護認定状況で、介護老人福祉施設入所待機者について伺うとのことのご質問でございます。

本町の介護老人福祉施設は、1法人が運営しており、入所待機者数は55名となっております。

12番（木佐貫徳和議員）

今の答弁で、介護認定を受けて、入所待機者は55名とのことですが、これは55名というのは町内の方と、多分、町外の方といらっしゃると思うんですよね。その内訳はお分かりでしょうか。

町長（石畑博町長）

数字については介護福祉課長に答弁させます。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

町内44人と、町外11人でございます。

12番（木佐貫徳和議員）

町内の入所希望者の方が44名ということでもありますけれども、当然全員、1か所には入所できないわけでもありますけれども、順位があると思うんですけれども、どのような入

所基準というのは、あるんでしょうか。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

入所評価基準に基づき、入所検討委員会において、点数化され、優先入所の順番が決定されていきます。待機者の中には、医療的ケアを必要とする方もいるので、入所優先順位が上位にもかかわらず、入院などの理由により、入所順位が下位の方が入所できる場合もございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

入所基準で、町内の施設に入所されない方は、町外に行かざるを得ないということでもありますけども、町外の施設に、南大隅の方は、面接で、多分希望されてる方は私はいらっしゃるんじゃないかと思うんですけど、それはどのぐらい希望の方が南大隅町民がいらっしゃるんでしょうか。お分かりでしょうか。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

近隣の施設では、青山荘23名、南松園14名、希望されておられます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

今、介護認定を受けて、町内希望が44名、町外施設に今、37名ということで、合計81名いらっしゃるといことなんですね。

これから、ますます介護認定を受けている方が増えるであろうと予想される中で、介護老人福祉施設は必要であると感じますよね。誰でも。町長はそこら辺のところ、どのように感じておるのか、そら辺をちょっとお聞かせ願えないでしょうか。

町長（石畑博町長）

高齢者の皆さん方、そういったグループの中でも、お話はたくさん聞いております。やはり私どもも皆さん含めてですけど、将来的に、この南大隅町で生活する中では、町内の施設でのそういった、将来の、在り方が1番大事だというふうに思っております。

ただ今、佐多にありました真寿園さん望洋会のほうが諸事情でお閉めになられたわけですが、この根占のほうも蒼水園さんがありますが、どちらの施設におきましても、介護施設での働く人、働き方に対する部分で働き手の確保が厳しいということでもありますので、今、真寿園さんのほうにもいろんなお申し出、要望もしたわけですが、結果的に今の状況でございました。

そういった中でも、やはりこの介護施設というのはどうしても必要な施設ということとは十分理解しているところでございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

生まれ育った町、あるいは嫁に来て、住みなれた町で、健やかな老後を迎えたいというのは誰でも願うことですよ。

3問目の質問でまた再度聞きますので、一旦ここでにおいて、次のデイサービスの質問をお願いいたします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

木佐貫議員の第2問、第②項、山村交流施設でのデイサービス状況について伺うとのご質問でございます。

佐多地区のデイサービス事業につきましては、昨年11月から山村交流施設を活用して、新たな事業所によるサービス提供が行われているところでございます。

現在の登録者数は51名で、1日平均15人程度の利用があるところでございます。

また、佐多山村交流施設につきましては、合宿等の利用がある施設でございますので、調整しながらの運営をお願いしているところでございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

地域密着型通所介護事業所として、1日、18人以下の利用で、町長の認可でスタートしたというのは認識してはるんですけども、先ほど今、町長が、登録人数は51名と言われましたけれども、利用者はこの介護基準どおり、利用できているのでしょうか。お伺いいたします。

町長（石畑博町長）

詳細につきましては、介護福祉課長に答弁させます。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

こちらにつきましては、介護度によって異なり、他のサービスと併用することによって、利用できない場合があります。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

介護では通常3日行けるのが2日になったり、2日の人が1日になったりということだと思っておりますけども、これは町長の認可、18名以下の利用でなければならないというのが、ネックになっておると思います。あとは、自宅で、ヘルパーの方々のお手伝いを頂きながら、この生活の支援というのを充実していかなければならないと感じております。

次に、山村交流施設は、合宿等の宿泊施設として建設されているわけですが、夏休みとか春休み、合宿等が来ると思っておりますけども、この申込みがあった場合、デイサービスをしてる時、どのような対応をされていらっしゃるのでしょうか。どこが担当でしょうか

町長（石畑博町長）

担当課長に説明させます。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

基本的には、福祉優先という考え方で調整し、デイサービスを優先しております。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

企画課長が座ってらっしゃいますけど、今年の私の一般質問の答弁で、ここにあるんですけども、答弁書が。「山村交流施設にデイサービスが入ったことによって、合宿ができなくなるようなことはないように調整します。」ということをお答弁され

で、いらっしゃるんですよね。

本当はデイサービスを優先して欲しいんですけども、本来の山村交流施設の目的というのは、さっき言ったように、合宿等で作った建設です。

しかしながら、デイサービスを優先しているとのことでありますけども、これは、合宿を、平日に来てもらうんじゃなくて、春休み、夏休みや土日に、できるだけしてほしいというのを、調整はそれで可能じゃないかと思えます。そこら辺は、そのように調整して頂きたいと思えます。

次に、利用者が休憩場所がないという苦情を私はもう聞いたんです。ちょっと行ってみますと、今年の台風で、雨漏りがして、畳が全部あげてあって、そのままの状態なんですね。この修繕というのはいつ頃の予定なんでしょうか。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

山村交流施設の修繕に関しまして、いろいろとご迷惑をおかけしてるところではございますが、和室のことだと思えます。和室の雨漏り修繕については、7月に終えております。

また、床修繕においては今、執行伺いを終え、契約に向け作業中ですが、年度内には終えたいというふうに考えております。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

畳をやりかえるということなんですか。それともフローリングに変えるということなんでしょうか。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

フローリングに変える予定でございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

高齢の方は本当は寝っ転がったりされたいと思うんですけど、フローリングに変えるのであれば、椅子なんかを準備してやらんと、フローリングのままじゃ駄目だと思いますので、そこら辺は、準備がしてあるんでしょうか。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

今、おっしゃっていただいたとおり寝転がったりと希望される方もいる一方、高齢者の方は座敷よりも、机、椅子タイプのほうが良いというような要望もございました。

で、今、フローリングタイプでしようとしているんですけども、今おっしゃったように、机椅子等の要望も実際ございまして、教育委員会で今管理している施設等から、所管替え等を行い、長机20脚パイプ椅子50脚程度を配置したいという考えで、今、進めているところでございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

はい、了解しました。施設面で、できるだけその利用者の方が、利便性が高まる方法で、考えていただきたいと思います。

それでは次の質問をお願いいたします。

町長（石畑博町長）

木佐貫議員の第2問、第③項、佐多地区旧介護老人福祉施設の払下げの経緯について伺うとのご質問でございます。

今年3月初旬に、3月31日付で、特別養護老人ホームを閉鎖したいとの申出があり、その後、法人の解散の手続きを進める上で、8月13日、無償譲渡したい旨の申し出がございました。

町としましては、同施設としては町としての利用計画がないことから、全協でも報告協議していただき、申し出につきましては受け入れないということを回答いたしましたところでございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

当然町は、施設運営をすることはないんですけど、施設運営をしてくれそうな法人を探す努力というものは、されなかったのか、そこら辺をお伺いいたします。

町長（石畑博町長）

今、既に、事業展開されてる法人が佐多のほうに、最低二つはございましたので、この二つの事業体に、それぞれお願いもしたところでありまして。鹿児島市にありません佐多ご出身の事業体にもお願いにも行きましたので、その経緯については、副町長と介護福祉課長が行っておりますので、そちらの方に説明させます。

副町長（竹野洋一副町長）

今、町長が申しあげました事項の詳細でございますけれども、まず、現在、事業運営をしておられました事業所様におかれましても、事業を閉鎖をされるという意思を確認した段階で、継続をできる事業所さんはないかということ。ここらについても、事業所にも申し入れもいたしました。

その後、町といたしましても、その段階で特に継承するような事業者はないということをお聞きしましたので、先ほど申しあげましたとおり、今、全国的にも事業を展開しておられますこの介護老人福祉施設の事業所であられます、地元に関係のあられる事業所様のところにもお伺いをして、事業の存続についての相談もしたところでございますが、その中で、具体的には、施設の立地条件であったり、それから施設の規模であったり、それから、職員の確保であったりというような諸問題等を総合的に判断をされて、現施設を利用しての事業の運営っていうのは、厳しいということをお示しをされたところでございますが、なかなか、その後は、全員協議会でもご報告、お願いをしたとおりの状況でございますけれども、相談をした中では以上のような状況でございました。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

聞いたところによると、介護職も募集したけど、なかなか応募がなかったという理由が最大の理由というのを聞いたんですけども、これはもうどこの町でもそうですよね。今はもう、外国籍の方が、どんどんどんどん来て、本町の同僚議員のところも、外国籍の方が、就職されたそうでもありますけども、そこら辺も、検討していかなければならないと思うんですけどもし、やってみたいという法人が町に来た場

合、私は、この介護職の募集というのは、もう町で手伝いせざるを得ないんじゃないかと思うんですよね。

それで、例えば外国籍の人を何名雇っても、それを今度は指導する介護職の人がいないといけませんので、指導する介護職の人を町をあげて、全国的にも募集して、それを紹介してやるという方法が1番、私はいいと思うんですけども、町でもうプロジェクトをつくって、介護職に特化した、募集をしてあげると、そういうのは町長、何か考えられないでしょうか。

町長（石畑博町長）

先ほどの今、これまで経営されてた方の、町のほうから、お引受けはできないという回答した段階では今、いろんな施設や法人に、後を継承できないかという動きはされているということで、聞いております。

ただそこにおいて、現在、どういった流れか聞いておりませんが、どうしてもやっぱり、施設継承はしてもらいたいという意向が大きいということで、現実的には社協のほうにも話もきたということがございます。

そういった中で、今おっしゃいましたとおり、1企業の誘致という感覚的なものを考えると、今の蒼水園さんにおいても、非常にこの介護職の方々の、雇用が厳しくなっているということもありまして、当然、外国人雇用も、今されていらっしゃるのです、そういった部分で、対象の法人等がもしあった際は、町としても積極的な形で、法人の運営ができる可能な、部分というのやっぱりこの介護職員の雇用でございますので、それについては十分町としても、取り組んでいきたいという考えでございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

うちの町の、広くアピールするために、子育て支援とか、あるいはまた定住支援、家族留学も全部含めて、募集して頂ければ、この間、奄美大島に行ったとき、その在校生より家族留学のほうが、児童生徒が多いということも聞きましたので、募集の仕方によっては、どんどん応募をされる方がいらっしゃると思うんですね。それに合わせて、外国籍の方を、入れたら運営が成り立つような、介護職が集まるんじゃないかと思っておりますので、そこら辺はぜひ、もししたら、検討して頂きたいと思っております。

先ほど町長もこの介護老人福祉施設の必要性は述べられましたので、いろんな情報を得られて、この佐多地区のもったいないですから、いい施設があるのに、利用しないというのは。そこら辺をぜひ、検討していただきたいと思っております。

次の質問をお願いします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

木佐貫議員の第3問、行方不明者対策についての第①項、現在の防犯カメラ設置状況と増設は考えられないか伺うとのご質問でございます。

犯罪及び事故を防止し、町民等が安全に安心して暮らせることを目的に、町が設置する防犯カメラが9基、自治会から要望があったところに設置する見守りカメラを18基、町内に設置しております。

防犯カメラは、町内の主要な交差点に設置してあり、見守りカメラは自治会からの要望に沿った形で設置してありますので、今後、見守りカメラについては、自治会からの要望等があれば、検討していく必要があると考えております。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

今、見守りカメラや防犯カメラを参考にしたいということ、今回の、行方不明者の捜索で、どっからどこまでの範囲で、カメラを利用して、見られたんでしょうか、お尋ねいたします。

町長（石畑博町長）

詳細は総務課長に答弁させます。

総務課長（熊之細等課長）

今回の行方不明者の捜索に関しまして、防犯カメラの確認ですけれども、捜査の状況等をもとに、伊座敷交差点、折山自治会、坂元自治会、上之園自治会に設置してあります4カ所のカメラのほうを確認したところでございます。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

折山は、何年か前、行方不明者が出て、多分、自治会の要望で設置されたと思うんですね。それで、折山から信号といたら数キロありますので、これが、真ん中あたりにもしあったら、この半分で捜索範囲ができたんじゃないかと感じますので、ぜひ、自治会長会あたりで、こういう必要性というのを言っていただいて、増設の方向で、検討頂きたいと思います。

9月19日から3日間でしたけど、この行方不明者の捜索というのは、何名の方が消防団含めてされたんでしょうか。

総務課長（熊之細等課長）

今回の行方不明者の捜索に当たられた人数でございますけれども、錦江警察署、大隅肝属消防組合、消防団、役場関係者を含めまして、3日間で延べ199名の方が捜索に参加されております。

1 2 番（木佐貫徳和議員）

暑い中で、私も参加させていただきましてけども、消防団の方も、警察の方も大変だったと思います。

そこで、自治会の自主防災組織というのも、非常に高齢化したここ自治会なんです。そうしたとき、この捜索される方に、昼食が、初日は出せなかったんですね。それで、自宅に消防団の方々は、どこに行かれたかわかりませんが、それぞれ食堂に行ったり、Aコープに買いに行かれたりして、自分たちで食べられたんです。

2日目は、それに気付いた自治会長が、家族からお金をもらって、町内のスーパーを全部あたって、全部のおにぎりを買って来たんです。おにぎりを買ってきても足りなかったんですね。

そういうことで、このようなときに私は、炊き出し班というのは、何かできないかと思うんです。例えば、女性消防隊の後方支援とか、それから女性会の支援と。こういうことは何か考えられないでしょうか。町長、どうでしょう。

町長（石畑博町長）

私も3日詰めしましたが、確かに、昼食時に会ったときにばたばたされて、自治会も本当に小規模の自治会ということで、非常にこの自治会長さんも苦慮されたところであり、結果的には家族ご負担でいろんな対応されたんですけども、女性消防隊も来ていただいておりましたので、そのときにもつくづく感じましたので、行方不明の捜索というのは年間にも、何件もはございませんので、そういった対応については、やっぱりきちっとしたそういった事案が発生したときにできるような形を、今後、女性消防隊に限らず、いろんな形で、女性会等も含めた形でご相談を申し上げていきたいというふうに考えます。

12番（木佐貫徳和議員）

3日間で今、先ほど199人、1日平均70人近くになったということでもありますけども、これには、ボランティアは多分含めないと思いますけど、ボランティアの方も二、三十人はいたんじゃないかと私は思いますけど、そこは、昼食についてはぜひ検討頂きたいと思います。これは、小さな自治会にとっては大きな問題だと思しますので、ぜひ検討頂きたいと思います。

それでは、最後の次の質問お願いいたします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

木佐貫議員の第3問、第②項、いろいろなGPS機能の機器があるが、家族の同意を得て利用は考えられないか伺うとのご質問でございます。

GPS機器につきましては、靴に入れるタイプやキーホルダータイプ、またペンダント式など、対象者が身につけることで、携帯電話で位置情報を確認できるものがありますので、効率よく活用できれば、捜索対応への効果は大きくあると考えます。

今後見守り活動の一環として、今回の事案を教訓とし、関係機関と協議してまいります。

12番（木佐貫徳和議員）

GPS機能の機器は携帯電話が1番分かりやすいんですけども、認知症の人が、携帯電話を持っていかないとも限りませんので、今、答弁されたいろんな機器の、利用について、車椅子とか、あるいはベッド等も、介護保険ではリースがあるんですね。このGPS機能というのは、介護保険で病気の方にはリース対応ができないんでしょうか。

町長（石畑博町長）

介護福祉課長に答弁させます。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

GPS機器につきましては、介護保険でリース対象となります。

12番（木佐貫徳和議員）

リース対応ができるのであれば、この行方不明者の捜索とか、遠く離れた家族の方々の見守り活動にも大いに役立つと思いますので、これは通信料は多分自分で払わないといけないと思いますけども、そこら辺も協議をしていただいて、家族の方と協議を頂いて、行方不明者の方が出たときすぐ対応できるような、対応していただければ、消防団の方々も難儀をしないような対応ができるんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

これで私の一般質問を終わります。

議長（松元勇治議員）

休憩します。

13 : 53

～

14 : 00

議長（松元勇治議員）

休憩前に引き続き再開します。

次に、後藤道子議員の発言を許します。

[1番 後藤 道子 議員 登壇]

1番（後藤道子議員）

令和6年は、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、東京では、羽田空港で日本航空機と海上保安庁機が衝突、炎上するという未曾有の出来事から始まりました。

また、2024問題では、働き方改革関連法が自動車運転業務に適用されることで生じる、物流、運送業界の人材確保に対する影響が懸念されています。

本町においても、人口減少、少子高齢化の中で、人材不足は喫緊の課題となっています。

第2次総合振興計画の中で思いやりのある健康、医療、福祉のまちづくりのための政策の基本方針に、介護の必要な高齢者やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らすために必要な介護サービスの提供に努めるとありますが、団塊の世代が75歳以上になる2025年を迎えるにあたり、今回1問目は、地域福祉の担い手について質問いたします。

①項目、令和5年9月の一般質問の中で、今後のヘルパー業務をされる方の費用補償を検討する必要があると答弁されましたが、結論を伺います。

次に、厚生労働省の推移では、今後の介護職員は2026年度、全国で25万人不足、高齢者がピークになる2040年度には、約57万人不足の見通しとされています。そこで、②項目、今後の福祉の担い手不足を解消するための施策を伺います。

2問目は、ネッピー・みさきちゃん奨学金制度について質問いたします。

本町独自の奨学金制度である、ネッピー・みさきちゃん奨学金の目的は、子育て世代の経済的負担を軽減すること、及び学校卒業後の帰郷並びに若者の本町への移住・定住を促進するため給付型ではなくローン型の奨学金制度ですが、利子相当額

については町が補助し、さらに卒業後10年以内に帰郷すれば、元金相当額も町が補助する制度となっています。

①項目、これまでの申請者数と不採用者数を伺います。

②項目、奨学金利用ができない生徒に対しての対応をどのようにしているか伺います。

③項目、希望者全てが利用できる制度に改善できないか伺います。

以上で、壇上からの質問を終わります。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

後藤道子議員の第1問、地域福祉の担い手についての第①項、令和5年9月の一般質問の中で、今後のヘルパー業務をされる方の費用補償を検討する必要性があると答弁されたが、結論を伺うとのご質問でございます。

費用補償という意味は処遇改善という解釈をしておりますのでよろしくお願い致します。

ヘルパー事業は、対象高齢者の生活維持に直結するものであり、サービス提供の継続が重要でございます。3法人のサービス提供事業者と協議を重ね、課題解決に向けて共同で取り組んでまいりました。

3法人のサービス提供事業所での協議検討が進められていましたが、令和7年1月からは2法人のサービス事業所が統合し、その後1法人の事業所が合流する予定となっております。

ヘルパーの処遇改善を図ることで職場の構築と訪問介護事業の継続、人材確保が可能となり、介護サービスの質を向上させるとともに、よりきめ細やかな支援が可能となるための支援策を講じる計画でございます。

1 番（後藤道子議員）

ヘルパー事業の環境を整える必要性があると私も思っております。統合した場合は何名体制でされるのか伺います。

町長（石畑博町長）

介護福祉課長に答弁させます。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

統合した場合、本所17名、佐多支所5名、計22名でございます。

1 番（後藤道子議員）

では、1日当たり1人で何件されるのか伺います。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

多い方で1日4件でございます。

1 番（後藤道子議員）

1人多くて4件。この件数でヘルパー事業をされる方が生計が成り立つのかなと、

ちょっと思うんですが、ここでちょっと気になるのが、時給単価はどのくらいというふうになっていますか。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

介護の内容によって異なりますが1,400円から1,530円でございます。また、介護福祉士資格者につきましては、若干単価の上乗せがございます。

1 番（後藤道子議員）

現在ヘルパーの不足は賃金だけの問題ではないのかもしれませんが、それでも、やはり皆さんが気にされるのは、1日幾ら貰えるのかというこの費用に対してで仕事をされてるのではないかなというふうなのを感じております。

そこで、現状を把握をするためにヘルパーさんたちへのアンケート、または聞き取り調査などをされたことはありますか。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

蒼水園につきましては11月22日から面談をしており、社協についても順次面談をしていく予定でございます。

1 番（後藤道子議員）

現状を把握するためには、ヘルパーさんたちへの聞き取り調査が必要だというふうに考えます。

今後は、今言われたのは多分その事業者さんがされているというふうに思うんですけども、町がこの処遇改善等をされるといっているのであれば、介護福祉課も調査の必要性があるのではないかなというふうに私は感じるんですが、その辺りをどのように捉えていらっしゃるでしょうか。

町長（石畑博町長）

今個々の事業者ごとにしていますが、それの方々を含めて今回日にちは設定されておりますけど、また全員を含めて町との協議をする予定でございます。

1 番（後藤道子議員）

先ほど最初の答弁の中で、町長のほうが、処遇改善費用は処遇改善という形ということだったので、ちょっと処遇改善加算の件でちょっとお伺いしますが、これは事業所が一定の要件を満たさなければ介護職員の給与を増やすためのお金が国から支給される仕組みはできないというふうに思っております。

そこ辺りは処遇改善加算ができる状態で今後統合されて始められるところはその条件は満たされているのでしょうか。

町長（石畑博町長）

現段階では今おっしゃるとおりだと思います。

1 番（後藤道子議員）

一応、国は1人当たり最大月37,000円というふうな数字が出ているのですが、鹿屋あたりの今ヘルパーさん達のを聞いてみると、先ほどと同じうちの町と同じ大

体1,300円から1,400円、これが単価ではそのようになっている現状です。

全てがそうだとはいきませんが、しかし、うちの南大隅町の人手不足のために鹿屋のほうからこちらのほうで働いてもらうというふうな考えであるのであれば、現状同じではいけないのではないだろうかと思えます。そこを鹿屋からうちの町で働いてもらうためには、このあたりの処遇改善加算もですが、現況の単価を町として上げる支援をするべきではないかと考えるんですが、町長その辺りをどうお考えですか。

町長（石畑博町長）

色んな要素がありまして今、今回社協と蒼水園さんが一体となるわけですがけれども、サービスのところの家に行くからの費用になりますので、今課題というのは、そこまでの行く時間の費用、そしてまた経費が国の手立てで見れてない部分がこれが一番課題でございまして、今回この部分をこの関係の事業者にも携わる方々との協議をした結果で、概ね蒼水園さん、そしてまた社協が合わせて妥協点を見い出しておりますので、その費用についてを今回計上をお願いするところでございます。

1 番（後藤道子議員）

では、先ほど単価を私が聞いた他に費用弁償を行うということで理解してよろしいですか。

町長（石畑博町長）

サービス単価は変わりませんので、それにかかる経費の分ですね。

例えば、キロ当たり30円とか、そういった関係を費用弁償という部分を整理させていただきたいと思えます。

1 番（後藤道子議員）

では、②項目をお願いします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

後藤議員の第1問第②項、今後の福祉の担い手不足を解消するための施策を伺うとのご質問でございます。

地域福祉につきましては、行政サービスはもとより、事業所、自治会、民生児童委員、地区社協と、多くの方々に様々な立場で支えていただいております。町では、介護職員初任者研修受講料の助成や認知症サポーター養成講座の開催など、担い手の確保、育成に取り組んでいるところでございます。

また、認知症サポーター養成講座については、町外の小学校や鹿屋市及び鹿児島市での養成講座も開催されているところでございます。

地域福祉の充実には、担い手の確保、育成が不可欠でございますので、今後も関係団体との連携を深め、的確にニーズを把握し、取り組んでまいりたいと考えております。

1 番（後藤道子議員）

うちの町は人口が減少する中でも高い高齢化率の町ですので、今後、先ほど色々な議員からの質問もありましたが、在宅介護者が増えてくると私は思います。

今、事業所が足りない場合に、どうしても自宅のほうで介護をするしか方法がないというようなことになってくるのではないかというふうに考えますので、その辺りを行政としてどのような対応を取るつもりでいらっしゃるのか伺います。

具体的には行政として、結局今、在宅で介護をする人に対してヘルパー不足の場合は家族が見ないといけなくなってるので、今、介護者支援事業などをやっていらっしゃるんですが、これを今の現状のままに進められるのかその辺りを。

在宅では誰が見るのかとなった時に、この高齢化で私実際自分の家で父を看たんですが、なかなかヘルパーの資格のない者が介護をするというのは大変な思いでしたので、今後町としてそういうヘルパーさんが不足をした場合に、家族が看ないといけないその状況を町としてどのような対応をされるのか、支援的なものを考えていらっしゃるのかその辺りを伺います。

町長（石畑博町長）

今社協のほうでもヘルパーの2級ですか、この資格取得をする部分に補助を出しておりますので、この中にはご自身で仕事として行かれる方もいらっしゃるれば、家族の介護をするために一応は資格を取得されるという方もいらっしゃいます。

今現在、今おっしゃいましたような、家族の介護をご自身の、例えば、家族を今おっしゃいましたようなことをするための環境がよく分かっておりませんので、一番いいのはサービス提供を受ける部分で介護保険等を活用したほうが一番いいと思うんですけども、そこについてはちょっと詳細私も把握をしておりますので、今後、検討は必要でということであれば、それは当然介護される方々も大変ご苦労されますので考えていくべきかなというふうに思います。

課長は何か答えありますか。何かありますか。詳細にまた補足があれば介護福祉課長に答弁をさせます。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

やはり、地域の高齢者福祉を支える介護サービスを安定的に提供していくためには、介護者の確保や定着が重要であると認識しているところでございます。

町内においても、特別養護老人ホームの廃止、それとグループホームの休止と、介護施設の不足が現状の中、ホームヘルパーサービスの充実は特に重要な問題として考えているところでございます。

国の令和6年度補正予算案についても、訪問介護サービスに対する確保支援事業も盛り込まれており、今後審議されるということでもありますので、各事業者と意見交換を図り、必要な支援について検討を進めていきたいと考えているところでございます。

1 番（後藤道子議員）

現在、在宅介護者は何名いらっしゃるのでしょうか。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

現在、在宅介護者は294名でございます。

1 番（後藤道子議員）

では、介護者を支援してらっしゃる方は何名いらっしゃいますか。在宅で。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

9名でございます。

1 番（後藤道子議員）

この介護者支援事業というのがうちの町はあるんですが、この介護支援で一応毎月3千円ということで支給をされてる事業があります。

この介護支援3千円のこれはもう多分長いと思うんですが、この辺りの使い勝手が悪いと、現在利用者の方からも何か変えていただけないかという要望を頂きまして、前回3千円の分を1千円分ずつの券に利用券に変えていただいたのですが、今、そういう方々がゆっくり休暇を取ってもらうためのそういう3千円の支給になってるんですが、なかなかそれが使えるような状況にないというのがこの利用者の方からのご意見です。この辺りを今後変えていくという考えはないか伺います。

町長（石畑博町長）

今、既に制度がある拡充ということですか。

（「・・・と使い勝手が悪い。」との後藤道子議員より声あり。）

担当課長で説明できますか。担当課に説明させます。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

介護者支援につきましては、現在のところ利用者の方からはそのようなお声は聞いておりませんが、今後、お話を聞いた上で要望を聞きながら対応をさせていただきたいと思えます。

1 番（後藤道子議員）

私は利用者の方から直接そういうご意見を頂いたので、また、その旨利用者の方のご意見も伺いながら、変更するべきところは使いやすい内容に変更していただければと思います。

次に、今後の福祉の担い手で民生委員さんが活動をされていますが、この民生委員さんの活動の中も、現在担い手が不足している状況にあると思うのですが、今後、今現在決まっていらない担当地区があるというふうに伺っていますが、今後その辺りはどのようにされるのか伺います。

町長（石畑博町長）

今おっしゃったとおり、民生委員の方々もご高齢になられてて、長く任務をしていただいている方もいらっしゃいます。ただ、それぞれ働き方の考え方とかで後任を探されるのもなかなか苦慮しているところでございます。

そういった部分には、やっぱりその地域地域を精通した方が一番いいということから、私含めて職員のほうでも根気強くご相談をしていくところではありますが、確かにまだ今空白の地区もあるということは確かでございますが、いずれにしても民

生委員としては必要な部分でありますので努力をしていきたいと思ひます。

1 番（後藤道子議員）

この民生委員さんの活動手当を令和5年度に変更をされて5千円増額をされてい
ます。

しかしながら、月に17,500円というこの手当で果たして民生委員さんたちが、こ
れだけの民生委員だけの仕事ではないのですが、今後はこの民生委員のこの活動を
仕事として捉えるような形のものも必要なかなあと少し思うのですが、その辺りは
町長はどのようにお考えですか。今のままのボランティアに近い状態なのでお願い
をして、空白地帯があるというのであればこの考え方を変えないといけないのじゃ
ないかなという思いの中でこういうのを提言させてもらうのですが、その辺りをど
のように考えられますか。

町長（石畑博町長）

民協の委員の方については、それぞれの事例というか国からの委嘱になりますの
で、それについては色んな流れもある中で今に至ってると思ひます。

ただ、うちの町だけで一気にということもいけませんので、定例民協等もござい
ますので、また肝属地区等のがございますので、そういった中で全体的な議論と
してやっぱり全体の意識を上げていくべきと思ひますので、そういった形での対応
で現状こうして不足の部分もあるということから対応については考えていきたい
と思ひます。

1 番（後藤道子議員）

この民生委員さんというのは大変重要な任務をされる方だというふうに認識を
しておりますので、南大隅町では高齢化も進んでおります。その中で、この人たち
の力を借りないといけない状況の中では、早急に今係りのいらっしゃらないところ
を、空白を埋める手立てをしていただきたいというふうに考えます。

次の2問目お願いします。

教育長（山下四郎教育長）

次に、後藤議員の第2問、ネッピー・みさきちゃん奨学金制度についての第①項、
これまでの申請者数と不採用者数を伺うとのご質問でございますが、この奨学金制
度は、南大隅町の次代を担う子どもたちが、ふるさとへ愛着を持ち、将来南大隅町
で活躍する人材となるべく勉学に励むことを支援し、もって南大隅町へ定住するこ
とを促進するため、卒業後10年以内に南大隅町に居住する意思を持つ学生の保護者
に対し、奨学ローンの返済を補助する制度でございます。

現時点で37世帯、50人分において申請を頂いております。

また、本制度は、奨学ローンの返済額に対して補助するものであり、住所要件や
納税証明書等の添付を必要としていますので、申請していただき、補助金交付決定
がなされなかったものはございません。

なお、連携していただいている金融機関において融資の採用、不採用、限度額は
決定されます。金融機関へ問い合わせましたが、個人情報等の関係で詳細はお聞き
できませんでした。

1 番（後藤道子議員）

この政策の基本の中で、子どもたち一人ひとりに未来社会を切り開くための資質、能力を育成するために、知識及び技能習得させ、子どもたちに生きる力を育むため、教育環境や教育体制の充実を図ることを政策の基本方針とされているというふう
に振興計画の中には載っております。

この状況の中で、このネッピー・みさきちゃん奨学金制度というのは、大変親にとっては有り難い制度だというふうには思います。

しかしながら、私のほうに問合せで、この制度があったのに利用できなかったという親御さんからの何故なのかとご要望を頂きましたので、今回またこの質問をさせていただきますんですが、確かに今奨学金制度は金融機関に委ねてあるので、町のほうでこれをどうにかするというのは多分難しいというふうには考えております。

それでは、この奨学金に対応できなかった方が役場のほうに出向いて相談をされるというのではないのでしょうか。

2番目のこの②項目の答弁をお願いします。

教育長（山下四郎教育長）

次に、後藤議員の第2問、第②項、奨学金利用ができない生徒に対しての対応をどのようにしているか伺うとのご質問でございますが、①項目で答弁したとおり、融資を受けることができなかつた方を把握できておりませんので、特に対応はしておりません。

しかし、日本学生支援機構では、経済的困難により進学を断念することがないように、利子付き・利子無し貸与奨学金に加え、給付型奨学金事業も導入され、給付型奨学金の対象者は、授業料の免除・減額を受けることが可能であります。

町としましても今後は周知に努めてまいりたいと思います。

1 番（後藤道子議員）

先程からこの相信さんの融資制度なので、親の収入によって貸付けがされるというふうになっております。

私としては、このネッピー・みさきちゃん奨学金という今から頑張ろうという子どもに対しての投資で行うべきじゃないかなというのを最初の設立当時から言ってきております。

今後、今物価高騰でもあるし、親が払えない状況という、返済がですね親が返済するという形になってるもんですからそのようなふうになってると思うのですが、やはり、せっかく宮迫オノリさん夫婦が人材育成に使ってほしいと言われての浄財ですので、今後はこの使い方を全ての希望者ができるような形に私はすべきではないかなというふうに考えるので、この③項目の希望者全てが利用できる制度に改善できないかというのの答弁をお願いします。

教育長（山下四郎教育長）

次に、後藤議員の第2問、第③項、希望者全てが利用できる制度に改善出来ないか伺うとのご質問でございますが、後藤議員のお考えは理解できますが、補助金という制度の中で支援しておりますので、希望者全てに支援することは難しいと考えております。

しかし、宮迫ご夫妻の遺徳の恩恵を本町の児童・生徒が広く享受出来るように、

義務教育課程において町内の児童生徒に公平に支援していることから、現在の奨学金制度に加え、教育支援の支援内容の拡充や支援の幅を広げることは重要なことであると考えております。

1 番（後藤道子議員）

この宮迫武蔵・オノリ教育基金というのの先ほど大坪議員のほうで令和5年度の残高のほうが1億5千5百80万9千円というふうに答弁をされたというふうに思っております。そして、令和5年度が1千1百33万8千円の取崩しを行ったというふうに答弁をされました。

このネッピー・みさきちゃん奨学金は設立から7年経っているというふうに思っているのですが、設立からUターンをしてこちらのほうで生活をして元金も返済を町が負担してもらってる方がいらっしゃるといふふうに思っております。これは非常にいいことだなあというふうに思います。

何故ならば、この宮迫さん夫婦は人材育成に使ってほしいという浄財なので、活用してこそ意義があるものだというふうに思います。これを取っていてもこの方々が人材育成に使ってほしいという意には沿ってないのではないだろうかと思うのです。

今色々とやってらっしゃいます、先ほど答弁のほうにもありました小学校入学、中学校入学、それと修学旅行など、この基金を宮迫基金を利用しての子どもたちへの支援をされてると思うんですが、やはりこの町から高校、先ほども半分以上がこの町から出ております。まだ専門学校、大学となると、それ以上に皆出ていくというふうになります。その方々の親は学校のその生活資金もうちの町からは通学ができないので必要となってくるので、この辺りにも支援を拡充するべきではないかなというふうに思うのですが、その辺りはどのようにお考えですか教育長。

教育長（山下四郎教育長）

今、後藤議員からありました、やはり将来を担う子どもたちにそういう勉学に励む機会、そういうものを保障することは大事なことだと考えております。

ただ、義務教育を卒業してから子どもたちは高校、専門学校、または短大、大学と色々な進路に進んで学ぶこととなります。ですので、色んな複雑な形になりますので一元化はやはり難しいかなと思います。

そうなった時に先ほども話をしました、やはり義務教育の時代、そういう子どもたちに手厚く、また幅広く支援していくそちらのほうを大事にしたいなというふうに考えております。

1 番（後藤道子議員）

第2次総合振興計画の中で、学校教育の充実の中で課題として自分の生まれ育った南大隅町のために地域の活性化や再生を目指して働く若者の育成や郷土を愛する気持ちを醸成するなど、次世代を担う人材を育てることが課題として書いてあったのですが、これにも本当に先ほどもUターンして来られている方がいらっしゃるといふのであるならば、私はそこへの投資も必要かなと思うので、せっかく頂いてこの浄財を生かすためには現在の奨学金の制度の改善が難しいのであるならば、教育基金を利用して高校生とか専門学校、大学の入学時の支援などは考えられないかと。

今、小学校、中学校に入学時に5万円の補助をされてますので、その辺りを拡充する形は考えられないか伺います。

教育長（山下四郎教育長）

やはり、子どもたちのそのような勉学に励むそういうものについての支援、大事だと考えております。

そういう意味で、先ほど言いました奨学金の利子を町のほうで支援する、または本町にまた帰って来たらその時は全てを町のほうで10年間は支援する、そういう制度で子どもたちの勉学に対して支援しています。

ただ、やはり色々経済的なことで難しい家庭もあると思います。ただ、今国のほうが色んな制度改正も行っております。

今年度奨学金の改正、また来年度は授業料の無償化等の改正についても今動いているようですので、やはり、そちらのほうもまた保護者、生徒に周知をしながら、そちらのほうの活用のほうについても進めていきたいなというふうに思っております。

1 番（後藤道子議員）

今、教育長のおっしゃった答弁は、私もそのような現在進んでいるということは承知をしております。

私が申し上げたいのは、この宮迫武蔵・オノリ教育基金というのがうちの町はあるので、この浄財を今生かさなければ子どもはどんどん少なくなっていくので、そのために今やるべきではないでしょうかということでも申し上げました。

ここは教育長だけの1人の決断では難しいというふうに思います。私はこの浄財を活用してこそ意義があるというふうに考えますので、この辺りを町長がどのように考えていらっしゃるのか聞いて、私の一般質問を終わりたいと思います。

町長（石畑博町長）

宮迫武蔵・オノリ教育基金については本当に有り難いご寄附を頂きました。今ネッピー・みさきちゃん奨学金の活用をしておりますが、その他の部分にも活用しているところであります。

そういった中では、今幅広くまずは全員に公平に出来ることというのは義務教育課程でございますので、そちらを優先した形での対応もしておりますが、今おっしゃるとおり、親御さんの声としては、小学校、中学校ばかりでなく高校もと、そういった声も聞こえては来ておりますので、今後全体的な予算を見たときに必要という部分は分かりますけれども、ただ、特に佐多地区におきましては、子どもさんが少なくなっていくしますので、そこを加味した形ではそこも反映した形で、今のこの基金、もともと頂いた分ですので活用する分については全然惜しみなくしていきたいということも思っておりますが、具体的な部分につきましてはまた今後検討させていただきます。

1 番（後藤道子議員）

本当に大変有り難い基金だというふうに思います。使ってこそ意義があるのでぜひ前向きな検討をお願いして、私の一般質問を終わります。

議長（松元勇治議員）

休憩します。

14：41

～

14：48

（ 畦地税務課長 退室 ）

議長（松元勇治議員）

休憩前に引き続き再開します。

次に、津崎淳子議員の発言を許します。

[7番 津崎 淳子 議員 登壇]

7番（津崎淳子議員）

12月に入り、日増しに寒くなってきました。今年は、年頭から能登半島地震、日向灘地震、台風10号と災害の多い1年でした。また、南海トラフがいつ起こるのかわかりませんが、来年こそは災害のない穏やかな年を願います。

昨年より防災に関するセミナーに参加しています。今後、役立てていきたいと思っています。大隅半島も能登半島と同じです。もしもの事を想定して、今回は、防災、減災について一般質問します。

①項、避難所の現況を伺う。

②項、現在の地域防災計画の中の自治会の役割について伺う。

③項、令和6年6月に国の防災計画が修正され、その中で、車中泊避難支援が加わりました。町は、地域防災計画にどのように計画を入れられるのか伺う。

④項、防災トイレや資材の確保について伺う。以上で、壇上からの質問を終わります。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

津崎淳子議員の第1問、防災・減災についての第①項、避難所の現況を伺うのご質問でございます。

指定避難所におきましては、町体育館や旧小学校、公民館等の施設、町内22箇所を指定しており、そのうち、神山小学校、佐多小学校、第一佐多中学校は、災害規模や避難者数に応じて開設の判断を行っております。

また、老人福祉センターと根占保健センターにおいては福祉避難所として、特別な配慮が必要な高齢者や障害者などを対象に開設しているところでございます。

7番（津崎淳子議員）

台風10号の時に避難所の被害報告が上がってききましたか。

町長（石畑博町長）

詳細は総務課長に答弁させます。

総務課長（熊之細等課長）

台風10号の襲来による避難所の被害状況でございますが、町武道館で雨漏りが発生しまして、夜中に避難者30名を保健センターに移っていただいたところでございます。

その他、旧登尾小学校、旧大泊小学校において、停電による断水や雨漏り箇所があったとの報告を受けているところでございます。

7番（津崎淳子議員）

今、被害報告の中で、武道館、登尾、それと大泊ありましたが、それはもう修繕されたんでしょうか。

総務課長（熊之細等課長）

現在、修繕を実施しているというふうに思っております。

教育長（山下四郎教育長）

詳細につきましては、教育振興課長のほうに答弁させます。

教育振興課長（畦地茂穂課長）

武道館、大泊小、旧登尾小については、今発注をかけて修繕中でございます。

7番（津崎淳子議員）

その中でも武道館なんですけど、昨年も雨漏りがあったと町民から聞きまして、先ほど申されたんですけど、武道館の雨漏りで、今回は要避難者を福祉避難場所である保健センターを配置職員の方々が準備、設定して、町民の方々を雨風の中を誘導してくださり職員も町民の方々も大変だったと思います。

武道館を利用されている方から、今後また雨漏りが続くんじゃないかという不安もあり、保健センターか庁舎内の大会議室を利用することはできないかの声も上がってるんですけど、保健センターは福祉避難所として指定されていますので、大会議室は利用できないのかお伺いします。

総務課長（熊之細等課長）

ただいま庁舎の大会議室を避難所として活用できないかということだと思えますけれども、今後、大規模災害が発生した場合に、災害対策本部を設置し、警察や消防、自衛隊などの関係機関が一堂に会して情報収集対策等の拠点となる場所と思っております。

そのようなことから、現時点では避難所に指定することは厳しいと思っております。

7番（津崎淳子議員）

大会議室はちょっと厳しいということなんですけど、町の体育館も避難所として開設されているんですけど、寝るには床が痛いということで利用者が少ないとお聞きしまして、なぜ武道館に避難するのかといえば、やはり畳があるからということがあるとお聞きします。

この武道館のかわりに体育館に畳にかわる敷物等の整備をすることを考えては

いただけないでしょうか。

町長（石畑博町長）

今回の武道館の件を受けて、確かに畳であるからということのご意見が多かったです。防災用品の中にも同等のそういった敷物というか敷くものもございますので、そういった対応は避難所の環境整備としてやっていきたいと思えます。

7番（津崎淳子議員）

そうしていただければ町体育館のほうを利用し易いかなと思えますし、体育館は換気の上でも本当にいいと思えますので。

次に、令和5年3月補正で、おおすみの園の建て替え時に大規模災害時の福祉避難所として補助をしていますが、このおおすみの園を一時避難でも利用できないのか伺います。

町長（石畑博町長）

介護福祉課長に答弁させます。

介護福祉課長（山里真奈美課長）

おおすみの園とは、大規模な地震、風水害の災害が発生、または予見される場合には福祉避難所としての使用の協力を要請する旨の締結を平成29年に行っているところでございます。協定上の大規模災害に捉われず福祉避難所として使用することについてはご理解を頂いていますので、受け入れ可能人数等の細部については、今後協議を重ねて対応してまいりたいと思えます。

7番（津崎淳子議員）

私たち議員もおおすみの園を見学させていただいて、台風10号の際は停電も浸水もなく被害もなかったとお聞きします。ぜひ先ほど答弁して下さったように、一時避難所として福祉避難場所として利用できれば、老人福祉センターのほうに川の氾濫などで利用できない時など大変助かると思えます。

今回、台風10号の際にJAきもつきの大会議室を開放していただき、近隣の住民は、近いし、安心して一夜を過ごすことができたという、すごく良かったとお聞きしました。このJAきもつきは2次避難所として指定されてるんですけど、今後も一時避難所として利用できるのかお伺いします。

総務課長（熊之細等課長）

前回の台風10号のときにJA鹿児島きもつきの根占支所のほうにお願いをしまして、開放していただけないかという連絡を取り合ったところ、いつも開けていただいているということもありましたので、防災無線でも前回お流ししたところでもございましたので、今後も連携を取りながら、JAさんのホールも含めて開放していただくようお願いをしていきたいというふうに思っております。

7番（津崎淳子議員）

このJAきもつきの大会議室を開放していただければ、また避難場所がまた新たな選べると思えますし、近隣の方たちも使いやすいし、交通手段としても徒歩で行け

る圏内の方も多数いらっしゃいますので、また周知していただけたらなと思います。

次の第②項をお願いします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

津崎議員の第1問第②項、現在の地域防災計画の中の自治会の役割について何うとのご質問でございます。

町内117自治会を自主防災組織として位置づけており、地域防災計画では自主防災組織の活動として、平常時に、防災に関する知識の普及、防災訓練の実施、火気使用設備等の点検、防災資機材の整備、保管、備蓄、緊急避難場所及び避難路の確認、災害時には、情報の収集伝達、出火防止及び初期消火、責任者による避難誘導、救出救護などを記載しております。

いざというときに、組織力が発揮できるよう、平常時から協力し合いながら防災活動に取り組む必要があると考えております。

7番（津崎淳子議員）

実際に活動をされている自治会を町としては把握されていますか。

町長（石畑博町長）

総務課長に答弁させます。

総務課長（熊之細等課長）

自主防災組織等との活動を詳細まで調査しておりませんが、地域によっては自治会ごとに消火訓練等を行っているところと聞いています。

また先般、佐多地区におきまして、太平洋沿岸の14自治会を対象に自治会が主体となった津波避難訓練を実施しております。課題等の洗い出し等が行われまして防災意識が高まってきていると感じているところでもあります。

7番（津崎淳子議員）

117自治会組織があつて、自主防災組織として実際に活動されている自治会というのは少ないかなと思います。自助、共助、公助の共助が自主防災組織に当たり、自治会の組織づくりになるかと思えます。

平成7年1月に発生した阪神淡路大震災では、生き埋めや建物等に閉じ込められた人のうち約95%は自力または家族や隣人など地域の人々の救助で助かっており、消防機関による救助は僅か1.7%に留まっていたそうです。

東日本震災でも、津波が発令した後に地域の人、早く逃げろ、早く逃げろ、のかけ声で多くの人とその地域は助かったと聞きます。

この2例から自治会における自主防災組織は必要で重要だと思います。よく高齢者からは、町内放送で高齢者等避難してくださいと放送があつても、交通手段がない、荷物を持ってどうやっていけばいいのか、行けないから不安だが仕方なくうちにいると言われます。

熊本地震による年齢別死者数を統計を出されていて、80代が最も多く、次に70代、

90代となっていて、高齢者が被害に遭う主な原因が、近所の人に迷惑をかけたくない、ここは安全だと思い込んでいる、情報収集が困難、このことから地域での交流を増やすべきとの結論が出たそうです。コロナ禍と人口減少などによって地域は交流が減った自治会もあるのではないかと思います。

はい、自主防災組織を作ってください、防災訓練や活動をしてください、と投げ掛けても自治会によってはハードルが高いのかなと思います。

今まで述べたことを踏まえて、まずは台風情報や避難指示が出たときに自治会の人たちはどのような避難行動を取っているのか。自治会内で助け合えることがないのかと思い、表を作成してみました。モニターをお願いします。（書画カメラ画像投影）

この表で上段のところは、各自治会で避難場所というのが、自宅、避難所、知人身内宅、町外、車中泊、その他、避難所への手段というのも主な手段を挙げてみました。この表をもとに自治会内で個々のアンケートなりを取ったりして記入していただいて、本人の承諾を得てから自治会内で共有して、災害の種類によっては自宅のほうが安全か、避難所に行くべきか、避難所に行く手段がない、じゃ誰が連れていくのかと、どうすればいいのか、どの経路で避難したほうがいいのか、自治会内でこういうことを話し合うことができるのではないかと思います、また話し合うことで顔が見える関係が構築でき、おのずとそれぞれの自治会に合った自主防災組織が出来上がっていくのではないのでしょうか。

上之河原自治会では、災害時に地域の高齢者が避難できるか不安を抱えていて、スマイル支え合い活動事業補助金を活用して、防災講座を行い、皆で話し合ったり、具体的なアドバイスも受けられ、また役場関係者に意見を伝えることができ良かったと活用事例集のほうに載ってました。このように各自治会での問題提起から始めたらよいのではないかと思います。

では、次の第③項をお願いします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

津崎議員の第1問第③項、令和6年6月に国の防災計画が修正され、車中泊避難者支援が加わりました。町は、地域防災計画にどのように計画を入れられるのか伺うとのご質問でございます。

現行の地域防災計画には、車中泊に関しての記載はしてないところであります。

国において、在宅・車中泊避難者等の支援の手引きも策定されておりますので、これらを参考にして問題点や課題を整理し、今後、大規模災害も発生する恐れもありますので、本町の実情に合わせた計画の見直しは必要であると考えております。

7番（津崎淳子議員）

今までの国の防災計画は避難場所だけの支援でしたが、在宅避難者、車中泊避難者も避難者等の支援に変わります。町としても、これから計画の見直しが大変だと思います。車中泊避難者の避難場所を指定するのか、否定するなら車中泊避難パークを整備するのか、情報収集や共有したり、避難者の状況把握や支援など、行政だけでは到底無理なことなので、官民連携による被災者支援、デジタル技術の活用をしていただきたいなと思いますし、また、車中泊避難によるエコノミー症候群の対

策、指導などと山積だと思えます。

参考までに、熊本県と崇城大学と民間で車中泊避難支援アプリの導入を来年4月に運用を開始するそうです。

次の④項をお願いします。

[町長 石畑 博 町長 登壇]

町長（石畑博町長）

津崎議員の第1問第④項、防災トイレや資材の確保について伺うとのご質問でございます。

避難所において、良好な生活環境を確保するため資材を計画的に備蓄しております。

備蓄している資材の大まかなものとしては、プライベートテント、パーテーション、簡易トイレ及びオストメイト用トイレ、簡易ベッドなどを確保し、根占地区、佐多地区に分けて備蓄している状況でございます。

なお、プライベートテントや簡易トイレ等に関しては、長期的な避難生活を強いられる場合や、断水時に使用することを想定しております。

7番（津崎淳子議員）

避難時に必要な資材は計画的にされ、地区ごとに備蓄されているということをお聞きしました。

佐多地区は災害時は停電も長いので発電機は各避難所に配置されていますが、根占地区は本庁の備品庫にあり、山間部の避難所は道路の分断も考えられるので各避難所に配置すべきかなと思えます。

台風10号の際は、大中尾も海岸線も通行できず、佐多は一時陸の孤島となりました。辺塚や大中尾、横別府など道路が寸断されると簡易トイレやパーテーションなど大規模災害時に使用する資材が運べなくなるので、両地区2箇所だけの保管ではなく、2次避難に関する資材も分散させたほうがよいのではないかと思います。

研修で良かった先進地の資材を紹介したいと思います。モニターをお願いします。（書画カメラ画像投影）

まず、高知県は、南海トラフの災害に備えて防災先進県高知として官民一体となり、高知県のバックアップのもと製品開発や販路開拓に取り組まれています。

まず、災害時に困るのがトイレです。古い配管では震度5弱以上では断水や配管割れを疑ったほうがよいとのことでした。

まず防災トイレは、本町の防災トイレは段ボールトイレとお聞きしました。左側のは防水バケツで400回分収納できて、また持ち運びもしやすい取っ手付きです。抗菌、消臭、防臭の三重の臭わない排せつ袋を備え、座面も身長の高い方や高齢者、腰痛、膝痛の方にも座りやすい高さになっています。

次に、右に男性用小便器なんですが、断水時の小便器は形状的に携帯トイレが使えなく大渋滞するそうですが、この防災トイレは既設の小便器にかけて活用できますし、どこにでも壁掛ければ臨時増設小便器にもなります。また、この段ボール小便器の下の段なんですけど、下の段の左側に、オストメイト専用の防災トイレは効果なんですけど、このトイレは樹脂ミラーを貼れば安価なオストメイトに変わります。

次に、防災リュックと大風呂敷なんですけど、左下のリュックなんですけど、ファスナー部分が蓄光タイプになってて停電時の持ち出しにも分かり、また軽く、収納も多く、軽量で機能的です。

次に、右上の大風呂敷なんですけど、これは厚手で体に巻いたり掛けたり、また火の粉除けや煙除けに使ったり、アレンジして帽子や赤ちゃんのだっこ紐など用途が多いです。

最後の紹介となりますが、これは名古屋工業大学の教授が発案され作成された段ボールハウスとインスタントハウスです。左側が屋内で使用する段ボールハウスで、1棟を組み立てるのに大人2人で15分で組み立てられ、接続部分は白いプラスチックを差し込むだけなので2棟を繋げることもできるし、断熱性がありプライバシーが保てます。避難所で、コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスが流行った時にこのハウスにしたら天井に穴があるので設置してから感染症がゼロになったそうです。パーティーションでは感染は防げなかったそうです。

次に、インスタントハウス、右の白いものなんですけどこれは屋外用で、このハウスの作成のきっかけが、東日本大震災の時に子どもから、仮設住宅を造るのになぜ3カ月から6カ月かかるのか、早く造ってよ、という声から、安くて早くて丈夫な家をとということで5年半かけてつくられたそうです。

すみません、先ほどの段ボールハウスのちょっと説明が足りなかったんですけど、次の画面で、この段ボールハウスの中はこういうふうに物をかけたり、ベッドを置いたり、一つの居住空間になります。一覧がこの体育館の中なんですけど、このようにずらっと設置されて、本当に個室というかそれぞれのプライバシーが保持できるような状況になっております。今のインスタントハウスなんですけど、これは防水シートの中からサーキュレーターで膨らませて、内側から断熱素材を吹きつけて、約1時間で完成されます。夏は涼しく、冬は暖かく、雨風や雪にも耐えます。災害時だけでなく、グランピングやワーケーションや別荘などにも利用されてます。海外でもトルコ地震のときに被災地に設置したりとかしています。

名古屋工業大学においては、インスタントハウスに絡んだ災害支援協定を複数の自治体と結んでいるようです。もし可能ならば災害支援協定を結んで頂けたらなと思います。そうすれば、仮設住宅の建設を長期間待たずに長期間の避難生活解消に繋がるかなと思います。平面であればグラウンドや空き地、壊れた家屋の横にでも設置できますし、また農業関係の方の休憩場所として利用できたりというのも出来ます。

昨年、今年と、熊本県で行われるセミナーに参加しまして、熊本県では、災害時の課題や教訓をもとに県、市町村、高校、大学、民間と防災に取り組んでいます。南海トラフを想定して、大分県、宮崎県は熊本県と災害支援協定を結んでおりまして、2県で大規模災害訓練も行っています。他の県の市町村も熊本県と結んでますし、対向支援も行っています。

やはり被災した県だからこその色々なノウハウがあると思うので、ノウハウを学んで吸収されたいからだと思います。

熊本県の避難場所となる小学校ではトイレ不足を解消にマンホールトイレを作ったり、公園のベンチを座ばんを外したら炊き出し場になったりとか、身近な場を色々防災に関係して工夫されております。

このセミナーは、防災の先進的技術や商品開発や取組み、高知からの出展や取組み、能登地震の被災状況や取組み等を聞くことができるとても大変勉強になりました

た。絶対に役立ちますので、ぜひ行政の職員の方も来年から参加していただけたらなと思います。

最後に、専門家によると、南海トラフはいつ起こってもおかしくない状況で、線状降水帯や台風、津波など、防災、減災するために今回の在宅避難、車中泊避難、避難所避難の選択、整備、引き続き資材の充実、地域に合った自主防災組織づくりなど進めていかないといけないと思います。また、現在指定している避難所が安心して過ごせる場所であるのか、避難所によって格差がないか見直す時期ではないかと思います。

最後に、今までの質問等を含めて町長の考えをお聞きして、私の一般質問を終わりたいと思います。

町長（石畑博町長）

去年、一昨年と、今年もでしたけれども、この台風災害での避難が非常に多くて、特に、武道館、そしてまた大泊の小学校等については非常に迷惑をかけました。

そういった中で、避難所の環境整備ということで、登尾小学校のほうからも色んなご意見がございまして、やっぱりこの町内避難所全てをやっぱり同じ環境にしていくべきかというふうに考えておりますので、今これまでJAさん、そしてまた体育館、武道館、色んなところ出たわけですけども、1日であるとやはり高齢者の方々はそれは苦痛であるということで避難をせずに自宅にいらっしゃったりとか、そういったこともあるやに聞いておりますので、避難所整備については急務、喫緊な課題として取り組んでいきたいと思います。

そして、先般、大泊太平洋岸の南海トラフにおける訓練をしたわけですけども、私は大泊に行ったんですけども、大泊の中でもやはりこの放送があってから正しく自分が何分かかって避難できるか、家から近い高台という部分はやっぱり確実に行きをされまして、そのあと集まられた中で色んなご意見等も聞いたわけですけども、やはり、この避難という部分に対しては大泊地区の地域のイメージを自分なりに思ったんですけども、自分が逃げればいいという部分ではなくて、あと誰と誰と誰はどげんすつとかという、そういった現実的なお話もあとの総括の中で話しが生まれて、そういったところにこの地域のコミュニティーがやっぱりちゃんと機能してるんだなあということをつくづく感じるところであります。

そういったことから今回この大泊太平洋岸でのこの津波の訓練については非常に有意義な形であって、今後の課題も地域地域ごとに違いますけど見えてきておりますので、そういったことを踏まえて、やはり年に1回はきっちり町が主導して、津波等の時には誰も来れませんので、やっぱり自分の避難は自分でしていくべきということを地域防災として先ほど出てますとおり、自治会等のアドバイスもしていきつつ、そういった避難に対する部分は大きく変わってくると思いますので取り組んでいきたいということで思っております。

夏場だけに限らず、やっぱり地震は今頻発で頻度も上がっておりますので、そういったことも含めて、昼間だけでもない、夜に来るかもしれない、そういった環境下でございまして、そういうことを踏まえてこの件につきましては取り組んでいきたいというふうに思います。大変ありがとうございます。

▼ 散 会

議長（松元勇治議員）

これで本日の一般質問を終わります。
以上で、本日の日程は全部終了しました。
明日は、午前10時から本会議を開きます。
本日はこれで散会します。

散 会 : 令和6年12月 5日 午後 3時26分